

嶋上遺跡群 24

小
森

2000

高槻市教育委員会

嶋上遺跡群 24

はしがき

平成11年度は、市内各所で数多くの重要な調査をおこないました。

鷲上郡衙跡ではおもに周辺部の調査をおこなってまいりました。郡衙の成立以前の状況が徐々にではありますが、あきらかになりつつあります。また、富田遺跡では江戸時代の窓の調査をおこない、当時の人々の生活をうかがい知る好資料となっています。

神内遺跡におきましては、さまざまな時代の遺構・遺物がみつかっております。これまで本市東部地域におきましては、遺跡の状況に不明な点が数多く認められましたものの、本年度の調査の進捗とともに縄文時代から中世に至る各時期の様相が垣間見えつつあります。

このほか、日本最古のキリスト教墓を発見しました高槻城跡では、あらたにロザリオを確認するなど、中世高槻城をとりまく情勢の解明にむけて調査事例が蓄積されています。

史跡今城塚古墳におきましては、第3次規模確認調査を実施するとともに、古墳本来の規模や築造にかかる重要な知見をあらたに得ることができました。調査の成果は今城塚古墳の整備・公開にむけ、貴重な資料として活用してゆきたいと思っております。

最後に、本書をまとめるにあたり、ご教示やご協力いただいた関係機関をはじめ多くの方々に、心から感謝申し上げます。

平成12年3月27日

高槻市立埋蔵文化財調査センター

所長 富成哲也

例　　言

1. 本書は、高槻市教育委員会が平成11年度国庫補助事業として計画、実施した高槻市所在の史跡・鷗上郡衙跡附寺跡周辺部及び市内遺跡の発掘調査事業（総額7,000,000円）の概要報告書である。
2. 事業は、高槻市教育委員会の直営事業として実施し、大阪府教育委員会の助力を得て、平成11年5月11日着手、平成12年3月27日に終了した。
3. 調査は、高槻市立埋蔵文化財調査センターがおこなった。本書の執筆・図面作成・製図は、鍾ヶ江一朗、宮崎康雄、高橋公一、木曾 広、難波紀子がおこない、分担は文末に記した。遺構・遺物の写真撮影は清水良真が担当した。遺物整理については以下の各氏から援助をうけた。厚く感謝する。
荒井純子・池田理美・井上明子・白銀良子・高橋美喜子・梅靖代・西岡和江・堀亞紀・松本信子

(順不同・敬称略)

4. 調査の実施にあたり、以下に掲げる土地所有者の方々をはじめ、関係機関各位のご協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。
安積和代・内田敬視・立川武司・一瀬史朗・川口雄二・今西昇・小林康人・順子・谷久美子・篠賀章・山口進・鶴鉄良一・中徳光雄・山口善章・上田俊之・小崎正道・岡田正夫・博子・小谷剛・中島威彦・大下清・五十嵐達也・上田敬治・古藤忠嗣・門川啓三・加藤亘男・芦田多美三・日高一美・入江洋三・西村憲夫・恵子・西谷芳一・南重軒・鈴木利彦・鈴木義継

(順不同・敬称略)

目 次

I 鳥上郡衙跡	1
II 中城遺跡	8
III 水室塚古墳	10
IV 宮田遺跡	16
V 富田遺跡	19
VI 郡家今城遺跡	23
VII 郡家本町遺跡	27
VIII 大蔵司遺跡	29
IX 宮之川原遺跡	31
X 高櫻城跡	32
XI 慈壇寺跡	34
XII 梶原寺跡	35
XIII 神内遺跡	39
XIV 今城塚古墳規模確認調査	41
XV まとめ	43

No.	遺跡名(地区)	調査地	面積(m ²)	申請者
1	鳥上郡衙跡(38-L)	清福寺町919-19・20, 920-6	79.66	安積和世
2	* (42-H)	郡家新町395-5	56.92	内田敬
3	* (43-E)	郡家新町395-1	100.33	立川武司
4	* (43-O)	郡家新町395-49・48の一部	103.02	一瀬史朗
5	* (57-K-L)	川西町1丁目1092-12	78.62	川口雄二
6	* (84-H)	今城町164-70	67.89	今西昇
7	* (84-B)	今城町189-6	101.23	小林康人・頼子
8	中城遺跡(1999-1)	昭和台町1丁目92-2	65.63	谷久美子
9	* (1999-2)	昭和台町1丁目68-1	153.13	篠賀章
10	水室塚古墳(1999-1)	水室町2丁目571-2	129.86	山口達
11	* (1999-2)	水室町2丁目571-4	100.01	鶴飼良一
12	* (1999-3)	水室町2丁目903-9	102.02	中島光雄
13	* (1999-4)	水室町2丁目571-28	100.05	山口善章
14	* (1999-5)	水室町2丁目571-30	129.64	上田後之
15	* (1999-6)	水室町2丁目571-27	100.01	小崎正道
16	宮田遺跡(1999-1)	宮田町3丁目26-9	119.71	岡田正夫・博子
17	富田遺跡(1999-1)	富田町4丁目2544-2	291.13	小谷兩
18	郡家今城遺跡(1999-1)	水室町1丁目791-5・6	233.58	中島威彦
19	* (1999-2)	水室町1丁目791-1	116.05	五十嵐達也
20	* (1999-3)	水室町1丁目781-27	101.11	大下清
21	郡家本町遺跡(1999-1)	郡家本町1000-26	214.39	上田敬治
22	大蔵司遺跡(1999-1)	大蔵司2丁目197	388.18	古藤忠綱
23	* (1999-2)	大蔵司3丁目114	51.03	門川啓三
24	宮之川原遺跡(1999-1)	宮之川原5丁目512-5	72.82	加藤宣男
25	高櫻城跡(1999-1)	大手町1162-17	485.62	芦田多美三
26	* (1999-2)	出丸町1277-18	71.12	日高一美
27	慈壇寺跡(1999-1)	成合北の町601-1	243.35	入江洋三
28	梶原寺跡(1999-1)	梶原1丁目277-2, 276の一部	247.63	西村恵夫・恵子
29	* (1999-2)	梶原1丁目369-6, 370-3	1170.11	西谷芳一
30	神内遺跡(1999-1)	神内2丁目93-8, 33	75.44	南重試
31	* (1999-2)	上牧北駅前町1218-82・83, 175, 176	187.36	鈴木利彦・義継

I. 島上郡衙跡

1. 島上郡衙跡（38-L地区）の調査

調査地は高槻市清福寺町919-19・20、920-6番地にあたり、小字は「川西北浦」である。当該地は市域を南北に貫く芥川の西岸に位置し、周辺では古墳時代の整穴住居や土器棺墓を検出している。

調査は重機で盛土を除去したのち、人力で掘削・精査した。基本的な層序は盛土（0.5m）、旧耕作土（0.2m）、暗青灰色土（0.1～0.15m）、黄褐色砂礫〔地山〕である。地山は北から南へむかって緩やかに下降していた。遺構・遺物は検出されず、一帯は芥川の氾濫原であったと考えられる。

（宮崎）



図1 島上郡衙跡（38-L地区）調査位置図

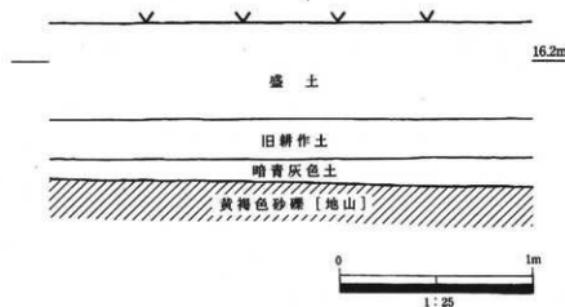


図2 島上郡衙跡（38-L）土層模式図

2. 嶋上郡衙跡（42-H地区）の調査

調査地は、高槻市郡家本町395-5番地にあたり、小字名は「仮又」と称する。現状は宅地である。

このたび、個人住宅建設工事が計画されたため発掘調査を実施した。

今回の調査地は、嶋上郡衙跡の西側にあたり、これまでに実施した調査では、弥生時代終末期の密集土壙墓群や5世紀中頃の古墳群、6世紀の土壙墓群が検出されており、一帯は長期にわたって墓域とされてきたことが判明している。

調査は届出地北西部に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削、精査をおこなった。層序は盛土（1.2m）、旧耕作土（0.2m）、黄灰色粘土〔地山〕である。調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。

（木曾）



図3 嶋上郡衙跡（42-H地区）調査位置図

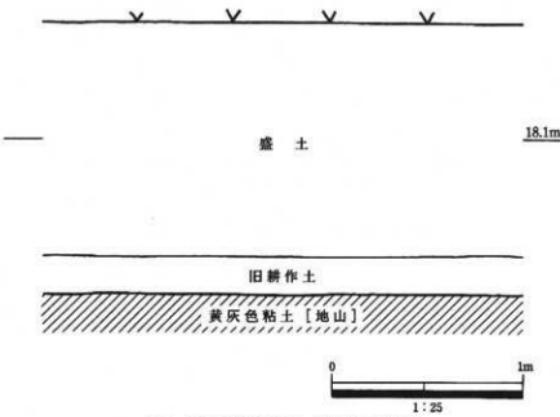


図4 嶋上郡衙跡（42-H）土層模式図

3. 鳴上郡衙跡（43-E 地区）の調査

高槻市郡家新町 395-1 番地にあたり、小字名は「仮又」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため発掘調査を実施した。

今回の調査地は、鳴上郡衙跡の西部にある。これまでの調査では、弥生時代後期の溝や古墳時代中期の古墳などが検出されている。

調査は届出地中央部に調査区を設定し、重機で盛土を除去したのち、人力で掘削・精査をおこなった。層序は盛土（1.2 m）、旧耕作土（0.2 m）、灰褐色粘土（0.15 m）、灰色色土〔地山〕

である。遺構・遺物は検出されなかった。（鎌ヶ江）



図 5 鳴上郡衙跡（43-E 地区）調査位置図

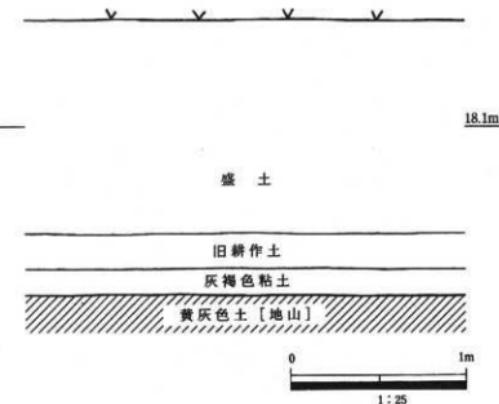


図 6 鳴上郡衙跡（43-E）土層模式図

4. 嶋上郡衙跡（43—O 地区）の調査

調査地は、高槻市郡家新町 395—49、395—48 番地の一部にあたり、小字名は「仮又」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は嶋上郡衙跡の西端にあたる。東に隣接した調査区（i）において 8 世紀代の建物群が検出されており、当該地にも同様の遺構のひろがりが予想された。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土、旧耕作土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.55 m）、旧耕作土（0.2 m）、床土（0.15 m）、濃灰色粘土（0.1 m）、黒灰色粘土（0.3 m）、白灰色砂〔地山〕である。このうち、濃灰色粘土層、黒灰色粘土層は植物遺存体を多く含む。地山は南から北に向かって大きく落ち込んでおり、これは東部の調査区で検出された近代水路の一部である可能性が高い。なお、遺物は認められなかった。

調査区が狭小なため、遺構のひろがりを追うことはできなかったが、周辺の状況から考えて、今後この周辺で遺構・遺物が検出される可能性は高いと考える。

（難波）

註

1 高槻市教育委員会『高槻市文化財年報 平成 5 年度』 1995



図 7 嶋上郡衙跡（43—O 地区）調査位置図

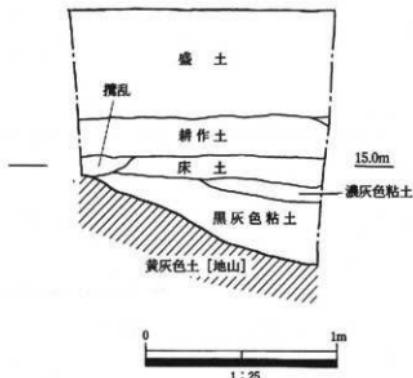


図 8 嶋上郡衙跡（43—O）土層模式図

5. 鳴上郡衙跡（57-K・L地区）の調査

調査地は高槻市川西町1丁目1092-12番地にあたり、小字名は「千原樋」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は鳴上郡衙跡の南部に所在する。これまでおこなわれた周辺の調査から、比較的遺構の希薄な地域であることが判明している。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土、旧耕作土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.85 m）、旧耕作土（0.1 m）、床土（0.05 m）、暗褐色土〔遺物包含層〕（0.2～0.45 m）、黄灰色砂礫〔地山〕で

ある。地山面は西側から東側へ向かって傾斜している。遺物包含層から、弥生時代後期に属する土器片が出土した。周辺の調査において、弥生時代及び古墳時代の遺物包含層が確認されているが、今回の調査では古墳時代の遺物は出土しなかった。また、遺構も検出されなかった。

（難波）



図9 鳴上郡衙跡（57-K・L地区）調査位置図

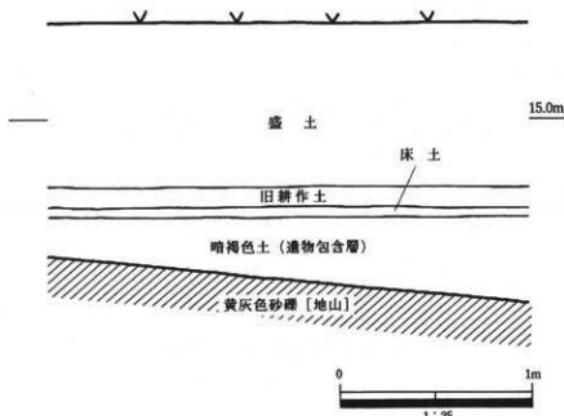


図10 鳴上郡衙跡（57-K・L）土層模式図

6. 鳴上郡衙跡（84-H地区）の調査

調査地は高槻市今城町 164-70 番地にあたり、小字名は「中久保」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は鳴上郡衙跡の南端に所在する。これまでにおこなわれた周辺の調査から、比較的遺構が希薄な地域であることが判明している。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本的な層序は盛土（0.75 m）、黒灰色礫混じり粘土（0.4 m）、淡黒灰色礫混じり粘土（0.6 m以上）である。黒灰色礫混じり粘土層及び淡黒灰色礫混じり粘土層は採石場の角砾を多量に含む。この層は周辺の調査において確認されていない。これらのことから、この2層は谷地形であった区域への人為的な埋め立て土である可能性が高いと考える。淡黒灰色礫混じり粘土はさらに下位へ続いていた。今回の調査では、遺構・遺物は検出されなかった。
(難波)



図11 鳴上郡衙跡（84-H地区）調査位置図

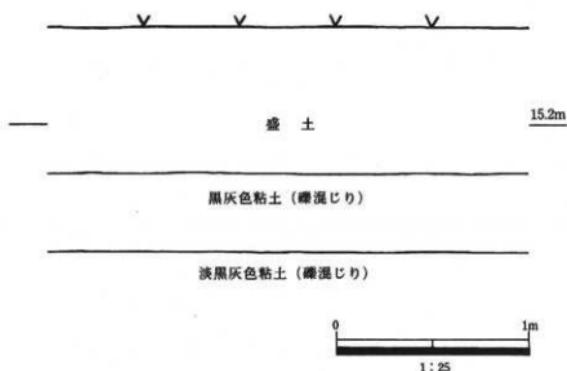


図12 鳴上郡衙跡（84-H）土層模式図

7. 鳴上郡衙跡（94-B地区）の調査

調査地は、高槻市今城町189-6番地にあたり、小字名は「中久保」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は、鳴上郡衙跡の南端にあたる。周辺の調査によって、遺構が希薄な地域であることが判明している。

調査区を届出地内に設け、重機で盛土及び旧耕作土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は、盛土（1.0m）、旧耕作土（0.05m）、床土（0.1m）、黄灰色シルト〔地山〕である。今回の調査では、遺構・遺物は検出されなかった。

（難波）



図13 鳴上郡衙跡（94-B地区）調査位置図

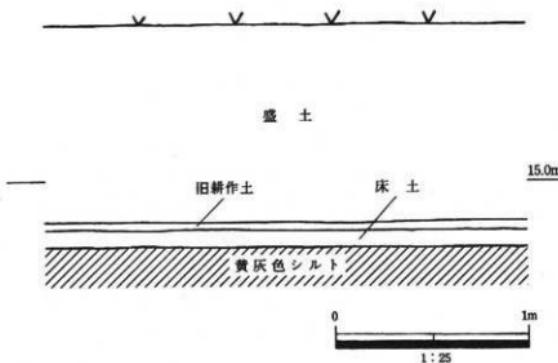


図14 鳴上郡衙跡（94-B）土層模式図

II. 中城遺跡

8. 中城遺跡（1999-1 地区）の調査

調査地は高槻市昭和台町1丁目92-2番地にあたり、小字名は「安房」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は北側にのびる富田台地上に位置し、中城遺跡の北部にあたる。富田台地周辺には弥生時代から中世にかけての遺跡が広く分布しており、調査区周辺では弥生時代から中世の遺物包含層が確認されている。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本的な層序は盛土（0.2 m）、灰褐色土〔遺物包含層〕（0～0.25 m）、黄褐色粘質土〔地山〕であった。地山は一部段状になっていたが、これは宅地造成時の地盤削平の痕跡と考えられる。灰褐色土層から、現代の瓦片などと共に弥生土器や中世の土器片が数点出土した。いずれも小破片のため詳細は不明である。
(難波)



図15 中城遺跡（1999-1地区）調査位置図

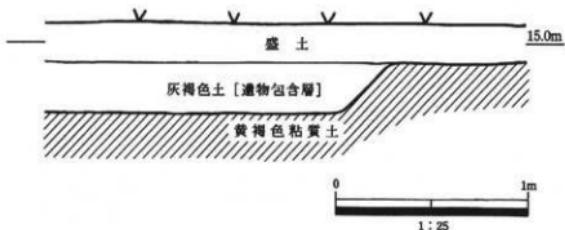


図16 中城遺跡（1999-1）土層模式図

9. 中城遺跡（1999-2 地区）の調査

調査地は高槻市昭和台町1丁目68-1番地にあたり、小字名は「安房」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は中城遺跡の北東部に所在する。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土を除去した後に人力による精査をおこなった。基本層序は盛土（0.35～0.5m）、黄褐色礫混じり土〔地山〕である。地山面は北側から南側に向かって緩やかに傾斜している。

調査区周辺では弥生時代から中世の遺物包含層が確認されているが、今回の調査では遺構・遺物は認められなかった。



図17 中城遺跡（2000-2地区）調査位置図

（難波）

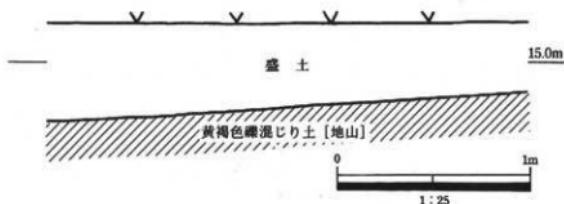


図18 中城遺跡（1999-2）土層模式図

III. 氷室塚古墳

10. 氷室塚古墳（1999-1 地区）の調査

調査地は高槻市氷室町2丁目571-2番地にあたり、小字名は「塚後」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は氷室塚古墳の北東端にあたる。古地図及び写真によれば、氷室塚古墳北東部には池が存在していた。今回の調査区はその池部分もしくはその周縁部にあたる。

調査区を届出地内に設定し、重機によって盛土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本的な層序は盛土（0.5 m）、灰褐色粘土〔埋め立て土〕（0.8 m以上）である。灰褐色粘土層は植物遺存体、こぶし大から人頭大の礫の他に近代もしくは現代の建築部材などを含む埋め立て土であり、周辺において大規模な埋め立て工事がなされたことを示唆する層である。灰褐色粘土層はさらに下位に統くが、地盤が脆弱かつ狭小な調査区であったため、調査を打ち切った。

これまでの調査では古墳に関連する遺構・遺物は確認されておらず、今回の調査でも検出されなかった。

（難波）



図19 氷室塚古墳（1999-1地区）調査位置図

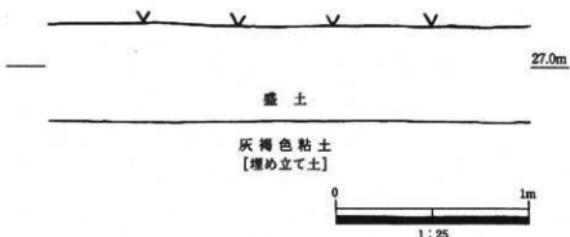


図20 氷室塚古墳（1999-1）土層模式図

11. 氷室塚古墳（1999-2 地区）の調査

調査地は高槻市氷室町2丁目571-4番地の一部にあたり、小字名は「塚後」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は氷室塚古墳の北東端にあたり、墳丘の裾もしくは池部分にあたる。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本的な層序は盛土（0.5m）、灰褐色粘土〔埋め立て土〕（0.9m以上）である。灰褐色粘土層は植物遺存体、こぶし大から人頭大の礫の他に近代もしくは現代の建築部材などを含む埋め立て土であり、周辺において大規模な埋め立て工事がなされたことを示唆する層である。灰褐色粘土はさらに下位に続くが、地盤が脆弱で狭小な調査区であったため、調査を打ち切った。

これまでの周辺の調査では古墳に関連する遺構・遺物は確認されておらず、今回の調査でも検出されなかった。
(難波)



図21 氷室塚古墳（1999-2地区）調査位置図

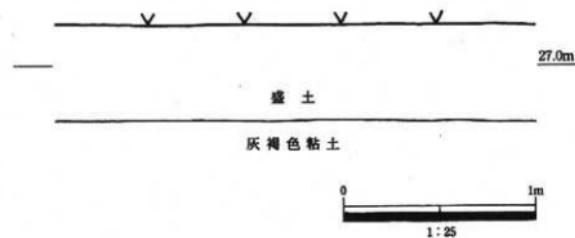


図22 氷室塚古墳（1999-2）土層模式図

12. 水室塚古墳（1999-3 地区）の調査

調査地は高槻市水室町2丁目903-9番地にあたり、小字名は「塚後」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は水室塚古墳の西南端にあたる。これまでにおこなわれた周辺の調査により、遺構が希薄な地域であることが判明している。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.4 m）、黒色土（0.01 m）、淡灰褐色粘土（0.1 m）、黒色土（0.01 m）、橙褐色土（0.3 m）、黒色土（0.02 m）、暗緑褐色粘土（0.1 m）、橙褐色粘土（0.2 m）、橙褐色疊混じり粘土（0.35 m）、白灰色粘土【地山】である。黒色土は旧地表と考えられ、当該地において過去に数次にわたる造成がなされたことが推測される。遺物を包含していないため、これらの時期については不明である。

これまでの周辺の調査では古墳に関連する遺構・遺物は確認されておらず、今回の調査でも検出されなかった。

（難波）



図23 水室塚古墳（1999-3地区）調査位置図

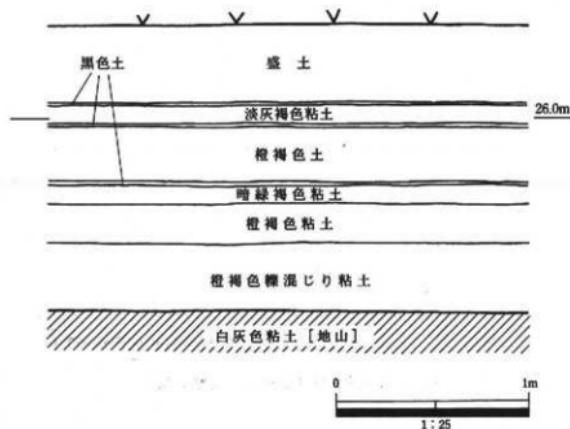


図24 水室塚古墳（1999-3）土層模式図

13. 水室塚古墳（1999-4 地区）の調査

調査地は、高槻市水室町2丁目571-28番地にあたり、小字名は「塚後」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は水室塚古墳の北東端にあたる。古地図及び写真によれば、水室塚古墳北東部には池が存在していた。今回の調査区はその池部分にあたる。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土及び埋め立て土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.45m）、灰褐色粘土〔埋め立て土〕（1.25m）、濃灰褐色粘質土（0.25m）、褐色砂質土（0.1m）、青灰色粘土（0.1m以上）である。褐色砂質土層及び青灰色粘土層は均質で、木片や木葉などの植物遺存体を多く含むため、池内に堆積した腐植土であると考える。青灰色粘土層はさらに下位に続くが、湧水が激しく、狭小な調査区であったため、調査を打ち切った。

これまでの周辺の調査では古墳に関連する遺構・遺物は確認されておらず、今回の調査でも検出されなかった。

（難波）



図25 水室塚古墳（1999-4地区）調査位置図
（難波）

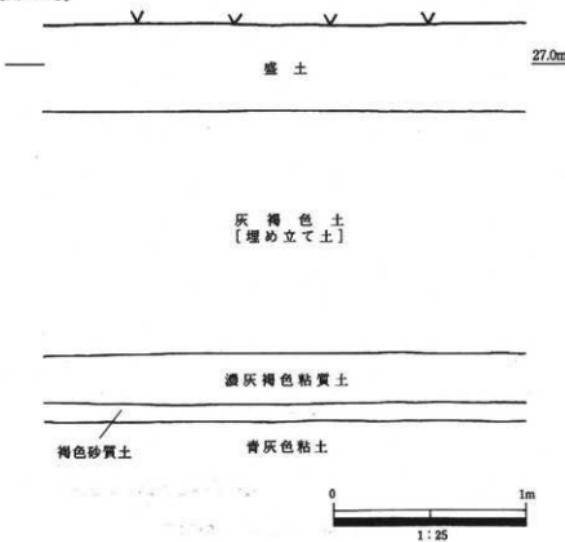


図26 水室塚古墳（1999-4）土層模式図

14. 氷室塚古墳（1999-5 地区）の調査

調査地は、高槻市氷室町2丁目571-30番地にあたり、小字名は「塚後」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は氷室塚古墳の北東端にあたる。古地図及び写真によれば、氷室塚古墳北東部には池が存在していた。今回の調査区はその池部分にあたる。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.5m）、灰褐色粘質土〔埋め立て土〕（0.4～0.6m）、青灰色粘土〔埋め立て土〕（0.5～0.7m）、褐色砂質土（0.25m）、青灰色粘土（0.1m以上）である。褐色砂質土層及び青灰色粘土層は均質で、木片や木葉などの植物遺存体を多く含むため、池内に堆積した腐植土であると考える。青灰色粘土層はさらに下位に続くが、湧水が激しく、狹小な調査区であったため、調査を打ち切った。

これまでの周辺の調査では古墳に関連する遺構・遺物は確認されておらず、今回の調査でも検出されなかった。

（難波）



図27 氷室塚古墳（1999-5地区）調査位置図

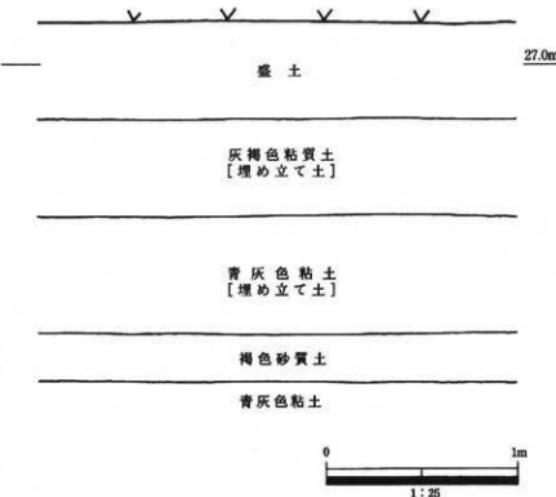


図28 氷室塚古墳（1999-5）土層模式図

15. 水室塚古墳（1999-6 地区）の調査

調査地は高槻市水室町2丁目571-27番地にあたり、小字名は「塚後」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は水室塚古墳の北東端にあたり、古地図及び写真によれば、墳丘部分にある。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.1m）、整地土（0.4m）、灰色土〔造成土〕（0.3m）である。灰色土〔造成土〕層以下は調査区全体がコンクリートによって固められていたため、これ以上の掘削をおこなうことはできなかった。今回の調査では、遺構・遺物は検出されなかった。



図29 水室塚古墳（1999-6地区）調査位置図
(難波)

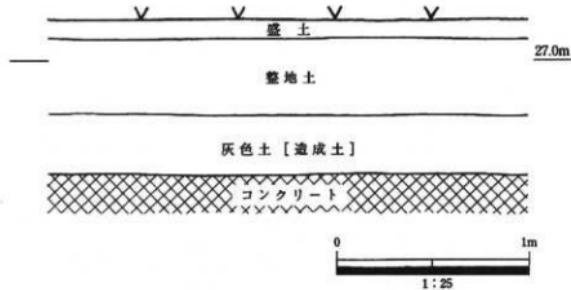


図30 水室塚古墳（1999-6）土層模式図

IV. 宮田遺跡

16. 宮田遺跡（1999-1 地区）の調査

調査地は、高槻市宮田町3丁目26—9番地の一部にあたり、小字名は「八反田」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。宮田遺跡は中世集落跡として知られており、当該地は宮田遺跡の北西部にある。周辺の調査成果として、調査地の北東において土坑1基、弥生時代後期の溝1条及び女瀬川の旧河道が確認されたこと⁽¹⁾、東部において平安時代初期の群集土塙墓が検出されたこと⁽²⁾があげられる。その他周辺では、弥生時代及び古墳時代の遺構・遺物が断片的に検出されている。

届出地北西部に調査区を西側<Ⅰ区>と東側<Ⅱ区>に2箇所設け、重機による掘削及び人力による掘削と精査をおこなった。

<Ⅰ区>

Ⅰ区の基本層序は盛土（0.55 m）、旧耕作土（0.15 m）、床土（0.1 m）、暗褐色土〔遺物包含層〕（0.15 m）、黄灰色粘土〔地山〕である。遺構は検出されなかつたが、遺物包含層から中世の土師器の細片が出土した。



図31 宮田遺跡（1999-1地区）調査位置図

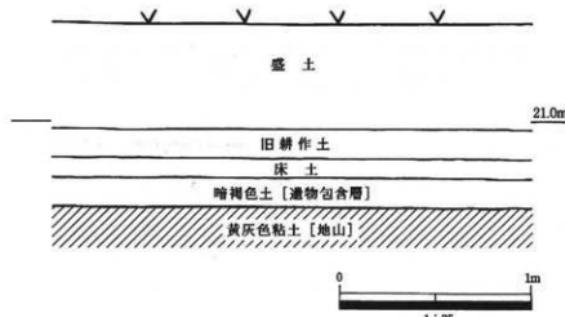
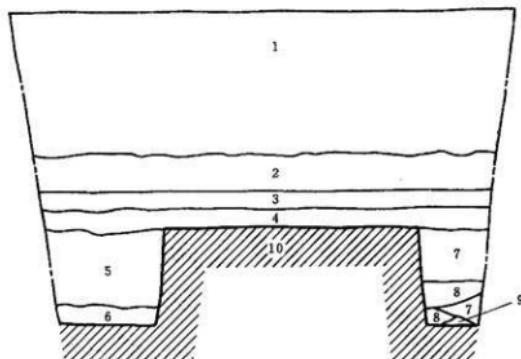


図32 宮田遺跡（1999-1）Ⅰ区 土層模式図



1. 淡褐色砂【盛土】
 2. 黑褐色土【旧耕作土】
 3. 黄灰色粘质土【床上】
 4. 绿褐色土【遗物包含層】
 5. 白灰色土
 6. 暗青灰色粘土
 7. 暗灰褐色土
 8. 黄灰色土
 9. 淡灰褐色土
 10. 黄灰色粘土【地山】

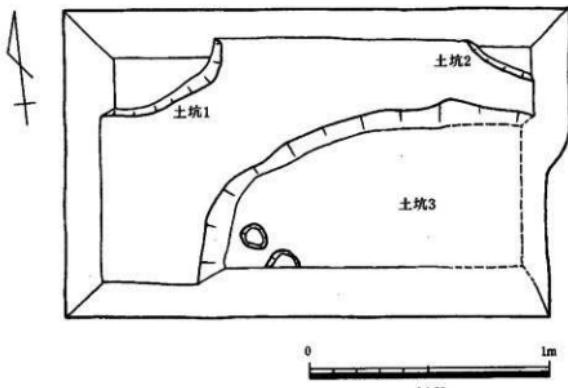


図33 宮田遺跡(1999-1) II区 平面図・土層図

< II 区 > (図版第 2a、図 34)

II 区の基本層序は、盛土 (0.6 m)、旧耕作土 (0.15 m)、床土 (0.1 m)、暗褐色土 [遺物包含層] (0.1 m)、黄灰色粘土 [地山] である。

地山上面において、土坑 3 基を検出した。いずれも調査区において一部を検出したのみであり、全形は不明である。土坑 1 及び 2 は急角度で掘り込まれており、断面の形状は逆台形をなす。いずれも底部は平坦で、深さ 0.4 m である。なお、平面形では円形を呈すと推定される。土坑 1 の埋土は、上層から白灰色土、暗青灰色粘土である。土坑 2 の埋土は上層から暗灰褐色土、黄灰色土が交互に堆積し、最下層に淡灰褐色土が堆積する。最上層の暗灰褐色土からは中世の土師器の細片が出土している。土坑 3 は地山上面から深さ 0.1 ~ 0.2 m である。埋土は暗灰褐色粘土であり、同層から中世の土師器片及び黒色土器片が出土した。また、土坑 3 からピットを 2 基検出した。ピットのうち 1 基はやや歪んだ円形で、径 0.12 ~ 0.13 m、深さ 0.05 m である。埋土は土坑 3 と同じく暗灰褐色粘土である。出土遺物等の検討から、これらの遺構の帰属時期は中世と考えられる。

その他の遺物として、地山上面から土師器の細片数片、瓦質の把手付鍋の把手部分が出土した。いずれも中世のものと考えられる。また、包含層から土師器片、近世の瓦片などが出土している。

小 結

今回の調査面積は限られており、遺構の性格を解明するには至らなかったが、本遺跡における中世の遺構の分布を確認したこと、一定の成果を得た。すなわち、本調査地のすぐ西側の調査地において明確な遺構が確認されていないこと(3)と、西側の調査区(I区)において遺構が検出されなかつたことを鑑みても、この付近から西側は遺構が希薄な地域である可能性が高いことを指摘できる。今後の調査によって周辺の状況が確認されることを期待したい。

(難波)

註

- 1 高槻市教育委員会「山上郡街跡他関連遺跡発掘調査概要・10」 1986
- 2 高槻市教育委員会「山上遺跡群 20」 1996
- 3 高槻市教育委員会「山上郡街跡他関連遺跡発掘調査概要・12」 1988

V. 富田遺跡

17. 富田遺跡（1999—1 地区）の調査

調査地は高槻市富田町 4 丁目 2544 – 2 番地にあたり、小字名は「市中之町」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は富田遺跡の南部に所在する。周辺の調査によると、北西に所在する普門禪寺の寺域より、奈良時代から平安時代の掘立柱建物や柵列、溝、ピット、中世の堀が検出された⁽¹⁾。その他、隣接地域から中・近世の遺構・遺物が確認されている。

遺構・遺物（図版第 2b ~ 5、図 35 ~ 37）

調査区を届出地中央に設定し、重機で盛土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は、最上層の整地土と考えられる白褐色土<1層>（0.05 m）、その下層に盛土である橙褐色土<2層>（0.1 ~ 0.15 m）と淡褐色土<3層>（0.05 ~ 2.25 m）、さらに下層には黄褐色粘土（漆喰混じり）<4層>（0 ~ 0.05 m）、褐色土<5層>（0.2 ~ 0.25 m）が続き、最下層が地山（橙褐色疊混じり土）<23層>となる。

今回の調査では、以下に記述する各層において遺構を確認した。なお、調査区の南半部は近・現代の擾乱坑である。

まず、5層上面では竈を 1 基検出した（図 35）。残存部分のみを測れば、長辺 0.6 m、短辺 0.5 m である。5 層を若干掘り込み、淡黄褐色粘土<7層>で周囲を固めて、丸瓦をコの字形状に並べたものである。検出状況から、竈の側壁は淡黄褐色粘土で成形されていたと推定されるが、後世の削平をうけているため、上部構造は不明である。丸瓦はいずれも凸面側を竈の内側に向かって、やや内傾させて据えられている。西側に丸瓦を一枚据え、その北側と南側に各 2 枚の丸瓦を玉縁部で連結させて並べている。なお、瓦の凹面側には藁と思われる有機物が残存していた。こうした竈の例として、竈の床面に平瓦を敷くものがある⁽²⁾。しかし、本調査で検出された竈には平瓦は伴わず、床面には灰土が認められたのみである。瓦（1 ~ 5・表 1）はすべて江戸時代後半のものと考えられ、遺構の時期はこれ以降のものであることがわかる。

溝 1（図 35）は、10 層及び 15 層上面から検出された。溝は東西方向に走っており、幅 0.15 m、深さ 0.03 m である。埋土は褐色砂である。溝は西側の不正方形の土坑と連結する。土坑の最大残存幅は 0.35 m で深さ 0.05 m である。なお、溝の東側は上層の遺構である竈によって切ら



図34 富田遺跡（1999—1地区）調査位置図

全長	全体				玉縁部		その他
	長さ	幅	高さ	厚さ	長さ	幅	
瓦1	24.8	20.8	14.0	6.7	2.1	4.0	(10.8)
瓦2	(22.9)	(19.4)	12.0	5.6	2.3	3.5	9.2
瓦3	24.4	20.5	13.3	4.0	3.2	3.9	10.6
瓦4	11.5	11.5	13.1	6.0	2.5	—	—
瓦5	(24.8)	21.5	13.5	5.3	2.1	(3.3)	10.9

表1 富田遺跡(1999-1)出土丸瓦調査表

(単位cm)

れている。

検出した土坑3基のうち、土坑1は15層及び地山<23層>から掘削されたことが壁面から確認できた。平面は上面で方形を呈するが、下面では円形である。また、断面形は逆台形で、底部は平坦である。径1.5m、深さ0.6mで、埋土(図37)はいずれもしまりが弱い。11層から、近世の瓦の細片が出土した。土坑2及び土坑3は一部調査区にかかる状態で確認できた。土坑2の平面形は方形で、深さ0.5mである。これは土坑3に切られており、さらに後世の擾乱を受けているため、埋土は部分的に確認できたのみ(22層)である。土坑3は地山直上の淡灰色礫混じり土<18層>の上面から掘り込まれている。平面は方形を呈し、断面は逆台形である。確認できた最大幅は0.8m、深さ0.5mで、埋土は20層、21層である。

溝2(図36)は南北に走り、幅0.2m、深さ0.03mである。埋土は淡灰色礫混じり土で、溝内からは近世の瓦片1点、円形の不明鉄製品1点が出土した。

検出したピット4基(図36)のうち、ピット1は円形を呈し、径0.2m、深さ0.6mで、内から弥生土器片2点、土師器片1点が出土した。いずれも細片で、詳細は不明である。ピット2は円形を呈し、長径0.27m、短径0.22m、深さ0.38mである。ピット3は一辺0.25mの方形を呈し、深さ0.67mである。ピット4は径0.15mの円形を呈し、深さ0.3mである。ピット1~4の埋土は暗褐色土である。

遺構内の埋土と出土遺物から判断すると、いずれの遺構も近世の枠内におさまるものと考えられる。また、遺構はさらに調査区北側に広がると推定できる。

その他、南半部の擾乱坑から、中世(9)~現代の瓦片、近世の備前系播鉢(6)等の陶器片、磁器片(7・8・10・11)、土師器片等が多数出土している。

小 結

富田遺跡の近世遺構は、その多くが近・現代の宅地造成のために削平されてしまっている。そうした状況の中、江戸時代の遺構を検出できたことは近世の富田の景観を復原する上で重要である。調査地の西側及び南側において、近世のものと思われる大型の土坑が検出されており(3)、本調査出土の土坑と大きさ等の点で類似している。現段階では、それらの関連性は不明であるが、今後の調査によって明らかになることを期待したい。

(難波)

註

- 1 高槻市教育委員会『高槻市文化財年報 平成5年度』 1995
- 2 近世窯の類例として以下の文献を参考にした。
堺市教育委員会『堺市文化財調査報告第34集』 1990
堺市教育委員会『平成3年度国庫補助事業発掘調査報告書』 1992
- 3 高槻市教育委員会『島上郡衙他関連遺跡発掘調査概要・14』 1990

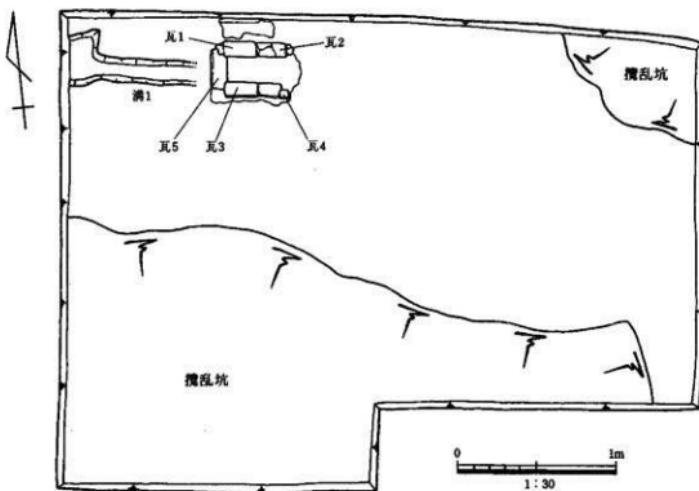
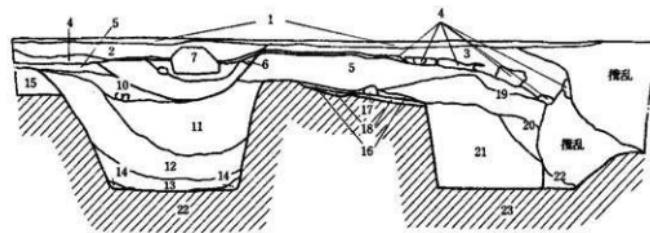


図35 富田遺跡（1999-1）平面図



- | | | |
|-----------------|--------------|------------------|
| 1. 白褐色土【整地土】 | 9. 灰褐色土 | 17. 白灰色土 |
| 2. 橙褐色土【盛土】 | 10. 淡褐色砾混じり土 | 18. 淡灰色砾混じり土 |
| 3. 淡褐色土【盛土】 | 11. 棕褐色土 | 19. 深褐色土 |
| 4. 黄褐色粘土【漆喰混じり】 | 12. 茶褐色粘土 | 20. 暗褐色砂砾 |
| 5. 棕褐色土 | 13. 淡褐色土 | 21. 棕褐色砂砾 |
| 6. 淡绿褐色土 | 14. 黑褐色土 | 22. 淡褐色土 |
| 7. 淡黄褐色粘土 | 15. 明褐色砾混じり土 | 23. 橙褐色砾混じり上【地山】 |
| 8. 淡灰褐色土 | 16. 黄褐色土 | |

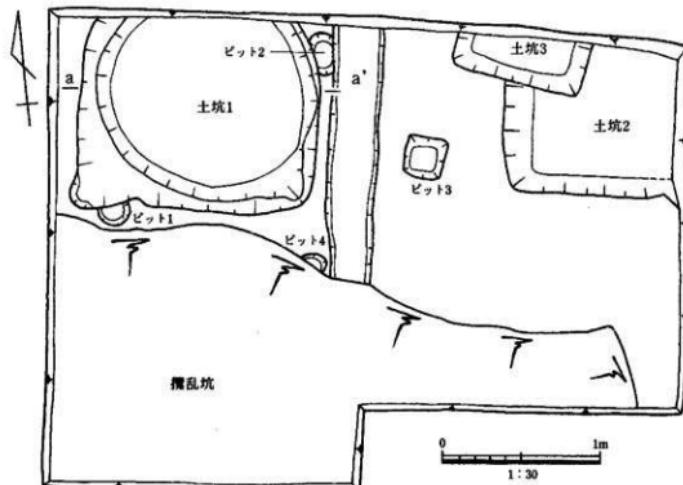


図36 富田遺跡（1999-1）平面図・土層図

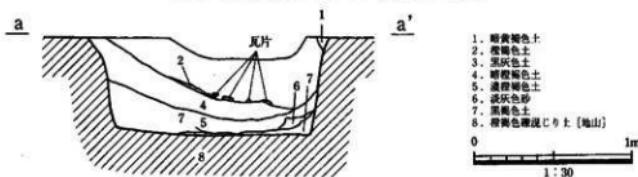


図37 富田遺跡（1999-1）土坑1 断面図

VI. 郡家今城遺跡

18. 郡家今城遺跡（1999-1 地区）の調査

調査地は、高槻市水室町1丁目791-5・6番地にあたり、小字名は「鳥黒」と称する。現状は宅地である。このたび、個人住宅建設工事が計画されたため発掘調査を実施した。今回の調査地は郡家今城遺跡の西南部にあたり、過去に実施した東側の調査では、旧石器のほか奈良・平安時代の遺構・遺物が数多く検出されている。

調査は届出地中央部に調査区を設定し、重機で盛土等を除去したのち、人力で掘削・精査をおこなった。層序は盛土（0.9 m）、旧耕作土（0.2 m）、黄灰色砂（0.2 m）、黄灰色粘土〔地山〕であり、遺構・遺物はまったく検出されなかった。

(鍾ヶ江)



図38 郡家今城遺跡（1999-1地区）調査位置図

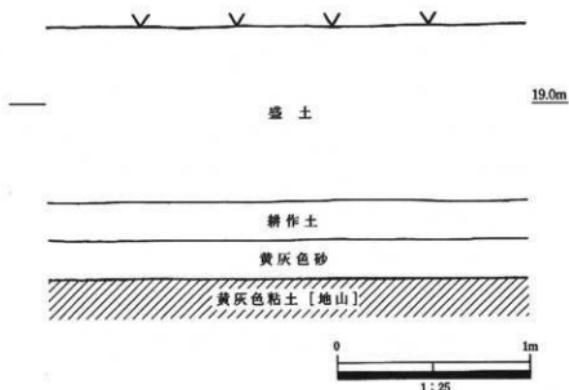


図39 郡家今城遺跡（1999-1）土層模式図

19. 郡家今城遺跡（1999-2 地区）の調査

調査地は高槻市氷室町1丁目791-1番地にあたり、小字は「鳥黒」である。現状は宅地である。今回の調査は個人住宅建設工事に先立つもので、近隣調査区では旧石器および奈良・平安時代の遺構・遺物を検出している。

調査は届出地中央部に調査区を設定し、重機で盛土等を除去したのち、人力で掘削・精査をおこなった。層序は盛土（0.9 m）、耕作土（0.2 m）、茶褐色粘土（0.1 m）、黄灰色粘土【地山】で、遺構・遺物はまったく検出されなかった。

（鎌ヶ江）



図40 郡家今城遺跡（1999-2地区）調査位置図

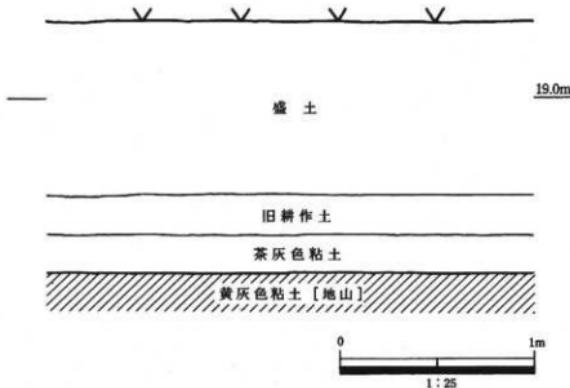


図41 郡家今城遺跡（1999-2）土層模式図

20. 郡家今城遺跡（1999-3 地区）の調査

調査地は高槻市氷室町1丁目781-27番地にあたり、小字名は「下河原」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は郡家今城遺跡の西端にあたる。調査地の東側一帯では、旧石器時代の遺跡や奈良時代から平安時代の集落跡が確認されている。これまでにおこなわれた周辺の調査により、本調査地の付近は比較的の遺構の希薄な地域であることが判明しているが、若干の遺構・遺物も確認されている。本調査地の南側では、地山直上に遺物包含層が確認され、須恵器片、土師器片、製塩土器片等が出土した。また、調査地の北側において女瀬川の旧河道が検出された⁽¹⁾。さらに、北側の隣接した調査区においてピット状の落ち込みが確認され⁽²⁾、北西の調査区で溝が検出された。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土及び旧耕作土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.75 m）、旧耕作土（0.15 m）、床土（0.1 m）、褐色粘土（0.05 m）【遺物包含層】、黄灰褐色粘土【地山】である。

遺構は床土上面において杭痕、遺物包含層上面においてピット1基を検出した。ピットは調査区の南壁にかかる状態で検出されている。平面形は円形を呈するが、上面の径より底径が大



図42 郡家今城遺跡（1999-3地区）調査位置図

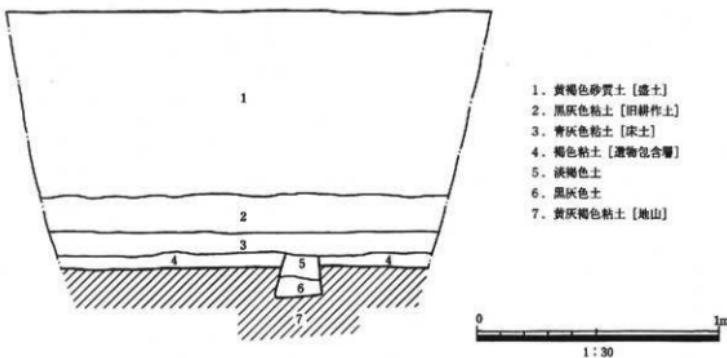


図43 郡家今城遺跡（1999-3）南壁土層図

きく、断面の形状は台形を呈する。深さ 0.15 m であり、埋土は上層から淡褐色土と黒灰色土である。黒灰色土中から土師器片 3 点が出土した。いずれも小破片であるため、遺構の時期等は不明である。その他の遺物として、遺物包含層より製塩土器と思われる小片 1 点、盛土から伊万里焼の破片 1 点が出土している。

この地域は、遺構の分布が希薄であると考えられてきたが、本調査地を含む一帯に遺構が分布していることを確認できた。今後の調査に期待したい。(難波)

註

- 1 高槻市教育委員会『鴻上郡衙跡他関連遺跡発掘調査概要・11』 1987
- 高槻市教育委員会『鴻上郡衙跡他関連遺跡発掘調査概要・12』 1988
- 2 高槻市教育委員会『鴻上郡衙跡他関連遺跡発掘調査概要・13』 1989

VII. 郡家本町遺跡

21. 郡家本町遺跡（1999-1 地区）の調査

調査地は、高槻市郡家本町 1000 - 26 番地にあたり、小字名は「東上野」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は丘陵の下方に位置する。北側は真正断層によって形成された落差 4 ~ 5 m の崖面である。

郡家本町遺跡は、南平台丘陵の南端に位置する弥生時代から中世にかけての複合遺跡である。一帯は古代における嶋原郡の中心地域であったと考えられ、周辺には数多くの遺跡が集中する。



図44 郡家本町遺跡（1999-1地区）調査位置図

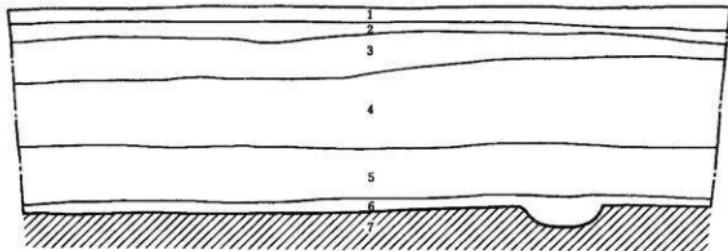
遺構・遺物（図版第 6、図 45）

調査区を届出地内に設定し、重機で表土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は表土（0.1 m）、白褐色土（0.05 ~ 0.15 m）、暗褐色土（0.1 ~ 0.3 m）[遺物包含層]、濃褐色土（0.4 ~ 0.55 m）[遺物包含層]、黒褐色土（0.3 ~ 0.35 m）[遺物包含層]、褐色砂質土（0.1 m）、褐色礫混じり土 [地山] である。地山の標高は約 23.5 m で、南に向かってわずかに傾斜している。

遺構は溝 1 条と落ち込みを検出した。溝は南北方向に走っており、幅 0.5 m、深さ 0.13 m である。落ち込みは一部を検出したのみであるが、最深 0.1 m である。これらの遺構に伴う遺物は認められず、遺構の時期は不明である。

遺物包含層が非常に厚く堆積しており、暗褐色土及び濃褐色土から弥生時代後期の土器片（2 ~ 8）が多数出土した。壺（2・5）、甕（6）、有孔鉢（8）、高杯（7）等の破片であるが、いずれも小片であり、完形に復原しうるものはなかった。その他、須恵器片や土師器の細片が少量出土した。黒褐色土層に包含される遺物はわずかで磨滅が激しく、弥生時代後期に属する土器の細片が確認できたのみである。その他、崖面から寛永通宝 1 枚（1）、土師器片、磁器（9）が出土している。

今回の調査は非常に限定されており、遺構の性格を解明するには至らなかつたが、今後この周辺において遺構・遺物が検出される可能性は高い。今後の調査に期待したい。（難波）



- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 明褐色砂質土【表土】 | 5. 黒褐色土【遺物包含層】 |
| 2. 白褐色土 | 6. 棕色砂質土 |
| 3. 暗褐色土【遺物包含層】 | 7. 棕色膠泥じり土【堆山】 |
| 4. 淡褐色土【遺物包含層】 | |

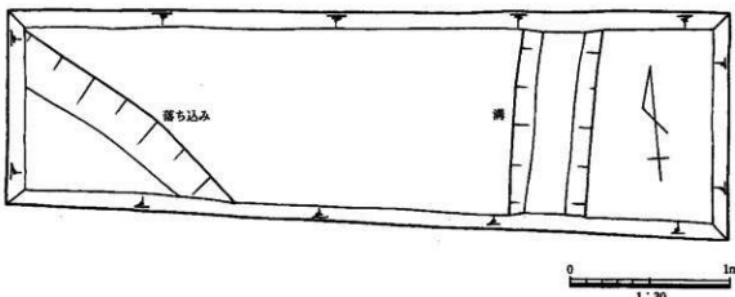


図45 郡家本町遺跡（1999-1）平面図・土層図

VIII. 大藏司遺跡

22. 大藏司遺跡（1999-1地区）の調査

調査地は高槻市大藏司2丁目197番地にあたり、小字名は「二反田」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は大藏司遺跡の西端部に位置する。これまでにおこなわれた周辺の調査により、遺構が希薄な地域であることが判明している。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土及び旧耕作土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.4m）、旧耕作土（0.1m）、床土（0.05m）、明黄褐色粘土（0.05m）、灰褐色粘土【地山】である。地山は掘り下げるにつれて疊が多くなる。盛土中から、現代の瓦片等と共に土師器片1点及び陶器片1点が出土している。今回の調査では遺構は検出されなかった。
(難波)



図46 大藏司遺跡（1999-1地区）調査位置図

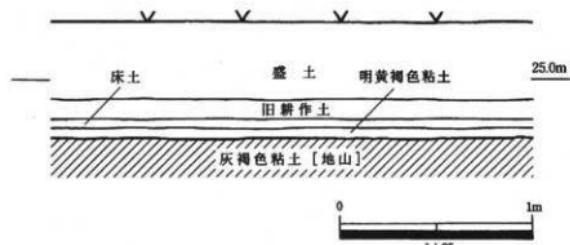


図47 大藏司遺跡（1999-1）土層模式図

23. 大藏司遺跡（1999-2地区）の調査

大藏司遺跡は芥川と真如寺川が形成した沖積地上に広がる弥生時代から奈良・平安時代の集落であり、その範囲は東西400m、南北600mと推定されている。

今回は個人住宅建設工事に先だって実施したもので、調査地は遺跡の南西部にあたる高槻市大藏司三丁目114番地に位置する。現状は宅地であり、小字名は「菩提」と称する。

調査地周辺では弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落跡を検出しておらず、当該地でも同様の遺構が存在することが予想された。

調査は届出地の中央にトレンチを設定し、重機により盛土等を除去後、人力で地山面まで掘り下げて遺構・遺物の検出に努めた。層序は盛土（0.4～0.8m）、旧耕作土（0.1～0.3m）、床土（0.05m）、淡褐色土（0.1m）、暗青灰色砂（0.25m）、暗褐色土（0.4m）、青灰褐色砂礫土〔地山〕であり、地山面の標高は約21.9mをはかる。

遺構・遺物（図版第7）

調査区中央でピットを2個検出した。

ピットの形状はともに矩形をなし、直径0.3～0.6m、深さ0.2mをはかる。両者の距離は2.3mであるが、一連のものであるかは判然としない。埋土は暗褐色土で、須恵器を含む。

遺物の大部分は包含層からの出土であり、すべて細片となっていた。ピット1出土の須恵器壺(1)は球形の体部に短く聞く口頭部がつく。口径15.3cm、復原高29.9cm、最大径28.3cmをはかる。



図48 大藏司遺跡（1999-2地区）調査位置図

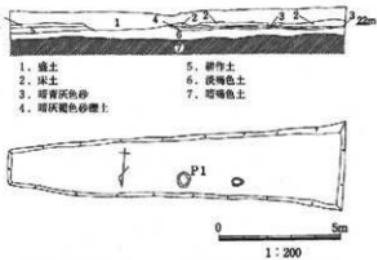


図49 大藏司（1999-2地区）平面図・土層図

小 結

今回の調査では古墳時代のピットや遺物をわずかながら検出した。当該地周辺は河川堆積による砂礫層がひろがり地山が不安定となっていることから、遺構・遺物の分布が希薄となっているようである。

(木曾)

IX. 宮之川原遺跡

24. 宮之川原遺跡（1999-1 地区）の調査

調査地は高槻市宮之川原5丁目512-5番地にあたり、小字名は「大明神」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地は宮之川原遺跡の東南部に位置する。これまでにおこなわれた周辺の調査では、弥生時代後期の住居跡等が検出されている。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土、旧耕作土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.5m）、旧耕作土（0.25m）、床土（0.15m）、淡白褐色粘土〔遺物包含層〕（0.15m）、暗褐色礫混じり土〔遺物包含層〕（0.6~0.7m）、暗褐色砂礫〔地山〕である。地山面は北西側から南東側に向かって傾斜している。遺物包含層から土師器片10点が出土しているが、細片で磨滅が激しく、詳しい時期などは不明である。遺物包含層は宮之川原遺跡一帯で検出される河川堆積層である可能性が高い。今回の調査では、遺構は検出されなかった。

（難波）



図50 宮之川原遺跡（1999-1地区）調査位置図

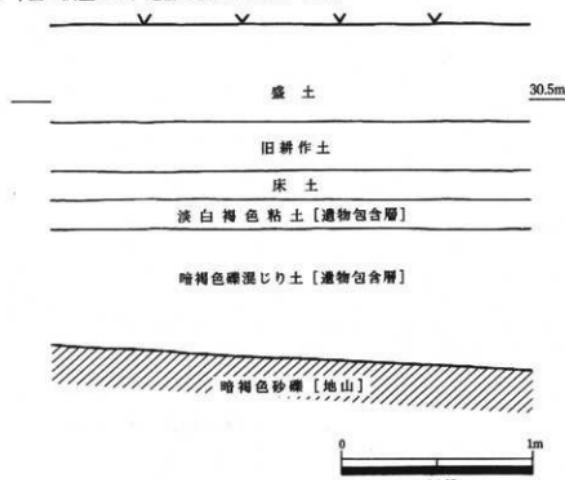


図51 宮之川原遺跡（1999-1）土層模式図

X. 高槻城跡

25. 高槻城跡（1999-1 地区）の調査

調査地は高槻市大手町 1162—17 番地他にあたり、小字名を「椋樹」と称する。現状は宅地である。当該地は近世高槻城の三ノ丸跡にあたり、周辺地域の調査では中世高槻城の堀や近世の井戸など多くの遺構・遺物を検出したほか、平成 10 年には日本最古のキリシタン墓地が発見されている。

今回の調査は個人住宅建設に先立って実施したもので、届出地内に調査区を設定し、重機で盛土等を除去したのち、人力による掘削および精査をおこなった。基本的な層序は、盛土 (0.6 m)、褐色土 (0.7 m)、暗灰色粘質土 (0.4 m)、青灰色粘質土〔地山〕である。今回の調査では城や墓地に関わる遺構・遺物は検出されなかつた。

(鐘ヶ江)



図52 高槻城跡（1999-1地区）調査位置図

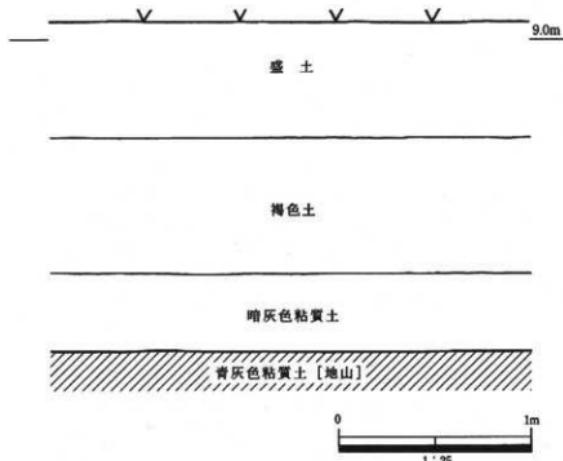


図53 高槻城跡（1999-1）土層模式図

26. 高槻城跡（1999-2 地区）の調査

近世高槻城は明治7年に取り壊され、現在では地名・道路などの町割りで全体像をうかがうことができるのみである。このたび、個人住宅建築工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。調査地は高槻市出丸町1277-18番地他にあたり、小字名を「南出丸」と称する。現状は宅地である。

調査は、届出地内に調査坑を設定し重機で盛土等を除去した後、人力で掘削作業をおこない、遺構・遺物の検出に努めた。

層序は、盛土（0.4 m）、茶褐色土（0.3 m）、暗黄褐色粘土（0.2 m）、暗黄褐色粘土（0.2 m）、暗黄褐色砂礫〔地山〕であり、地山面の標高は8.2 mをはかる。

今回の調査では、出丸等の城郭に関わる遺構・遺物は検出されなかった。 (木曾)



図54 高槻城跡（1999-2地区）調査位置図

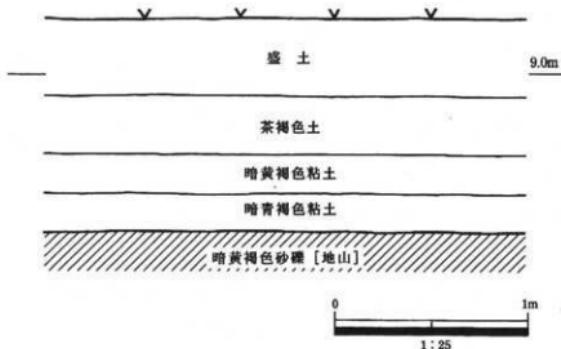


図55 高槻城跡（1999-2）土層模式図

XII. 悉壇寺跡

27. 悉壇寺跡（1999-1 地区）の調査

調査地は高槻市成合北の町 601-1 番地にあたり、小字名は「宮脇」と称する。現状は畠地である。個人住宅新築工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。悉壇寺跡は『三代実録』貞觀 16 (874) 年 12 月条に記載されている市内でも数少ない古代寺院の一つである。現在は成合の春日神社周辺部がその推定地として知られている。当該地は推定寺域の東端にあたり、これまでにおこなわれた周辺の調査により、比較的遺構の希薄な地域であることが判明している。

調査区を届出地中央に設定し、重機で耕作土を除去した後に人力による掘削及び精査をおこなった。基本的な層序は耕作土 (0.05 m)、床土 (0.1 m)、白灰色粘土 (0.05 m)、灰橙褐色粘土 [整地土] (0.15 m)、暗灰褐色礫混じり土 [地山] であった。調査区の北東には丘陵がせまつておらず、地山面は東側から西側に向かって緩やかに傾斜している。

今回の調査では、遺構・遺物は検出されなかった。

(難波)



図56 悉壇寺跡（1999-2地区）調査位置図

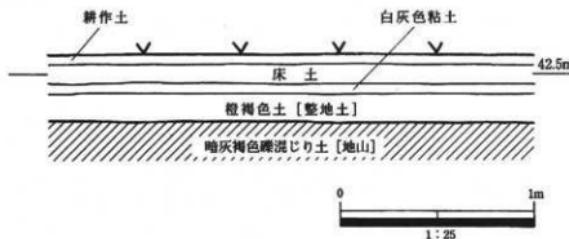


図57 悉壇寺跡（1999-1）土層模式図

XII. 梶原寺跡

28. 梶原寺跡（1999-1 地区）の調査

調査地は高槻市梶原一丁目 277-2, 276 番地の一部にあたり、小字名は「未房」と称する。現状は宅地である。個人住宅建設工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。当該地区は梶原寺跡の南辺部にあたる。

調査区を届出地内に設定し、重機で盛土及び旧耕作土を除去した後に人力による掘削削及び精査をおこなった。基本層序は盛土（0.2 m）、旧耕作土（0.15 m）、床土（0.15 m）、褐色土（0.05 m）、淡白灰色礫混じり土（0.3 ~ 0.4 m）、褐色礫混じり粘土【地山】である。地山面は西南側に向かって緩やかに傾斜している。今回の調査では、遺構・遺物は検出されなかった。



図58 梶原寺跡（1999-1 地区）調査位置図

（難波）

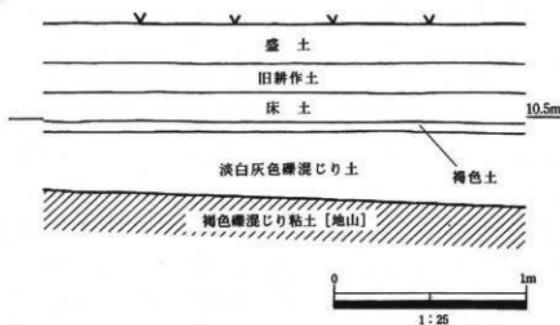


図59 梶原寺跡（1999-1）土層模式図

29. 梶原寺跡（1999—2 地区）の調査

調査地は高槻市梶原一丁目 369-6、370-3番地にあたり、小字名は「山本前」と称する。現状は宅地である。今回の調査は個人住宅建設工事にさきだって発掘調査を実施したもので、当該地は梶原寺跡の東側にあたる。これまでの調査では、調査地北側において奈良時代の掘立柱建物や瓦窯を検出している。

遺構・遺物（図版第9・10）

届出地内に A～C の 3カ所の調査区を設定し重機で盛土等を除去後に人力で掘削をおこない、遺構・遺物の検出につとめた。

A 区は届出地西側に設定した。層序は盛土・整地土 (0.8 m)、暗灰色粘質土 (0.3 m)、暗青灰色疊混粘質土 (0.1 m)、暗灰色粘土 (0.3 m)、青灰色砂礫 (0.2 m)、青灰色疊土 [地山] である。検出した遺構はなく、青灰色砂礫中から瓦類がまとまって出土した。

B 区は届出地東側に設定した。層序は盛土・整地土 (0.75 m)、暗灰色粘質土 (0.45 m)、暗青灰色疊混粘質土 (0.1 m)、暗灰色粘土 (0.3 m)、暗青灰色粗砂 (0.2 m)、暗灰色疊混粘土 [地山] である。暗青灰色粗砂から瓦類が出土した。

C 区は届出地北側に設定した。層序は盛土・整地土 (0.5 m)、暗灰色粘質土 (0.7 m)、青灰色砂礫 (0.1 m)、青灰色粗砂 (0.3 m) となり、以下は暗灰色粘土と青灰色粘土の互層となる。遺構は検出されず、遺物は暗灰色粘土層より土師器皿の小片が出土したのみである。

今回の調査では、95 点の瓦類が出土したが、いずれも破片であり、全体を復元できるものはない。内訳は軒平瓦 1 点、丸瓦 34 点、平瓦 60 点で、近世のものも若干含むが、大半は 7 世紀後半から 8 世紀のものとみられる。以下、主なものについて述べる。

1 は均整唐草紋軒平瓦で、瓦当右半部の唐草第一単位付近がのこる。内区の唐草紋は、主葉の巻き込みが強く、第二子葉はやや太い。また、下外区は珠文を配するが、上外区を欠いている。こうした特徴は島谷稔氏による報告（「高槻上代寺院跡の研究（一） 梶原寺及びその瓦窯跡」『大阪文化誌』第 1 卷・第 1 号 1974 年（財）大阪文化財センター）の梶原寺跡出土軒平瓦 No.54 にみられ、これらは同範の可能性が高い。曲線顎で、凸面はナデ調整、凹面には模骨痕、布目がみられる。瓦当部の厚さは 3.5cm で、淡灰白色を呈する。

2～8 は丸瓦である。2 は側面がのこる。凸面は丁寧なナデ調整を施し、凹面は布目がのこる。厚さ 1.6cm で、暗灰青色である。3 は側面の凹面側角を削り、面取りをしている。凸面は



図60 梶原寺跡（1999—2 地区）調査位置図

ナデ調整、凹面に布目がみられ、厚さは1.8cmを測り、淡灰色である。4は側面の凸面側角に面取りをしている。凸面はナデ調整、凹面は布目がみられ、厚さは1.6cmを測り、暗灰青色を呈する。5は胎土に砂粒を含む。凸面はナデ調整、凹面は布目、厚さは1.4cmで、暗褐灰色である。6は玉縁部で、横方向のカキ目状のナデ調整を施す。凹面には布目がみられる。厚さ1.3cmで、淡青灰色を呈する。7は側面がのこる。凸面はナデ調整、凹面は布目、厚さは1.4cmで、淡灰黄色である。8も凸面はナデ調整、凹面は布目がのこる。厚さは1.5cmを測り、淡灰白色である。

9～23は平瓦である。9は凸面は横方向のカキ目状の調整でタタキ痕を消し、凹面は布目がのこる。10～14は凸面に布目タタキの痕跡をのこすものである。10は狭端面から約2.3cmに直径2mmの孔を焼成前に穿っている。凹面には模骨痕と布目がのこる。厚さ1.5cmで、暗灰色を呈する。12は狭端隅部で厚さ1.5cm、13は側面付近で厚さ1.5cmで、どちらも凹面は布目を部分的にスリ消しており、暗灰色を呈する。14は広端隅部で、凹面は布目をすり消している。厚さ2.2cmで暗灰色である。

15～23は凸面に斜格子タタキ痕をのこすものである。15は側面をのこすが、焼成が不十分で斜格子タタキ痕は不明瞭である。凹面は布目を部分的にすり消している。厚さ1.5cmで、淡灰橙色を呈する。16は狭端隅部で、タタキ痕は不明瞭である。凹面に布目がのこる。厚さ1.5cm

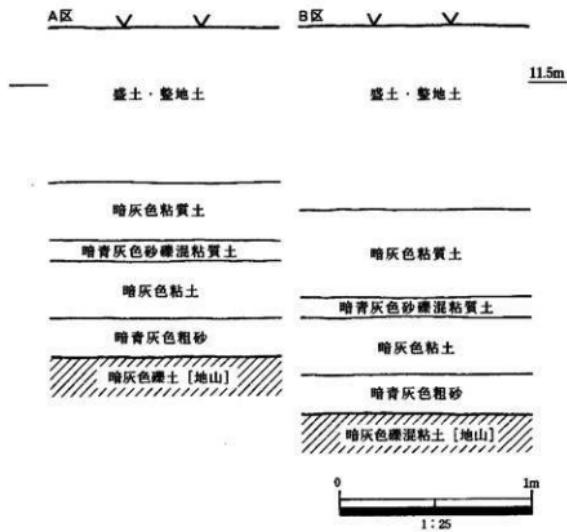


図61 梶原寺跡（1999-2）土層模式図

を測り、淡灰褐色である。17は広端部である。凸面のタタキ痕は一辺6~7mmの斜格子である。凹面は全面にわたり布目をスリ消している。厚さ2.4cmで、淡灰橙色を呈する。18は端部だが、広端か狭端かは不明である。斜格子は一辺8mmを測り、凹面は布目をスリ消している。厚さ2.5cmを測り、淡灰橙色である。19は側面部で、凸面に一辺5~7mmの斜格子タタキ痕、凹面には布目がのこる。厚さ1.8mmで、暗灰橙色を呈する。20は凸面に一辺8mmの斜格子タタキ痕を有し、凹面は布目を部分的にスリ消し、模骨痕がのこる。厚さ1.4cmで、淡灰色を呈する。21は側面部で、凸面の斜格子タタキ痕は一辺8mm、凹面は模骨痕がみられ、布目を部分的にスリ消している。厚さ1.4cmを測り、淡灰色を呈する。22の斜格子タタキ痕は一辺7mmで、凹面は布目を部分的にスリ消している。厚さ1.8cm、暗灰褐色を呈する。23は広端面がのこる。凸面に一辺8~11mmの斜格子タタキ痕を有し、凹面は全面にわたり布目をスリ消している。厚さ2.4mを測り、暗灰黄色を呈する。

(鐘ヶ江)

XIII. 神内遺跡

30. 神内遺跡（1999-1 地区）の調査

神内遺跡は高槻市東部に広がる古代から中世の集落である。一帯は淀川と北摂山地に挟まれた狭隘な平野部となり、周辺には内ヶ池・牛池・丸池など淀川の河跡湖や池沼の存在を示す地名がみられる。当遺跡は調査例が少なく、遺跡の性格を語るほどの資料は蓄積されていない。過去に実施した調査では奈良・平安時代の土器類や中世の石鍋等が出土しており、古代から中世にかけての集落が展開すると考えられている。

調査地は高槻市神内2丁目93-8番地他にあたり、小字名は「伸牛池」と称する。現状は宅地である。今回の調査は個人住宅建設工事にさきだって実施したものである。当該地は神内山と淀川にはさまれた平野部にあり、「神内」の地名に由来する「神南櫛の森」推定地に接することから周辺に何らかの遺構が存在することが予想された。調査は重機で盛土等を除去した後、人力で遺構の確認及び層序の把握に努めた。層序は盛土（1.0 m）、旧耕作土（0.2 m）、黄褐色砂（0.1 m）、黄灰褐色砂質土（0.2 m）、暗褐色土（0.2 m）、黄灰褐色土〔地山〕であった。

今回の調査では遺構や遺物は検出されなかったものの、比較的良好な状態の地山を確認することができた。一帯の遺構検出状況からみて周辺には何らかの遺構がひろがる可能性がある。

(木曾)



図62 神内遺跡（1999-1地区）調査位置図

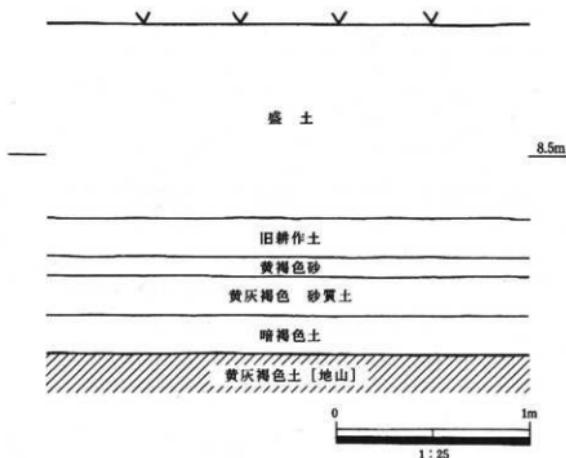


図63 神内遺跡（1999-1）土層模式図

31. 神内遺跡（1999-2 地区）の調査

今回の調査地は高槻市上牧北駅前町 1218-82 番地にあたり、小字名は「友次」と称する。このたび、個人住宅建替工事が計画されたため、事前に発掘調査を実施した。

調査は盛土等を重機で除去した後、人力で遺構・遺物の検出および層序の観察に努めた。層序は盛土（0.8 m）、旧耕作土（0.2 m）、黄灰色粘土（0.2 m）、黄褐色土（0.3 m）、灰色粘土（0.2 m）、黄灰褐色土〔地山〕であった。

遺跡の外縁部に位置するためか、遺構・遺物は検出することはできなかった。（木曾）



図64 神内遺跡（1999-2地区）調査位置図

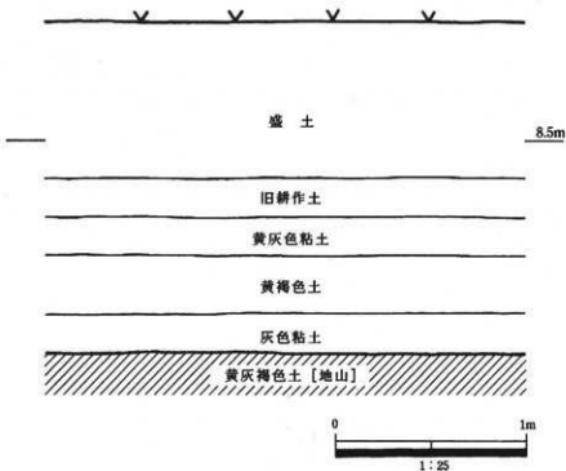


図65 神内遺跡（1999-2）土層模式図

XIV. 今城塚古墳規模確認調査（第3次）

今城塚古墳は、6世紀前半に築造された二重の濠を有する巨大な前方後円墳であり、昭和33年2月に史跡指定を受けている。

平成9年度からは保存整備に必要な古墳各部のデータを得るために、平成8年度に作成した墳丘測量図をもとに規模確認調査を実施した。平成8年度（第1次調査）・平成9年度（第2次調査）は後円部側の内濠の幅、深さ等の形状把握と墳丘・内堤それぞれの基礎部の状況把握と外濠埋土の観察をおもな目的として後円部北東および北側に調査区を設定して調査をおこなった。調査の結果、古墳の規模や形状が明らかになるとともに、城砦は永禄11（1568）年に摂津へ侵攻した織田信長による築城であることが想定できるようになった。

今回の調査は、平成11年度国庫補助事業（総額4,000,000円）として実施した今城塚古墳の第3次規模確認調査であり、後円部の直径や墳丘と内・外濠の遺存状況を知るために第2次調査区の南側延長上にあたる後円部南側に調査区を設定した。

調査の結果

今回の調査では古墳の規模や形状、戦国期の改変の状況があきらかになった。

墳丘は後円部の盛土と築造時の地表面を確認した。北から南へ緩やかに下降する地山直上から長さ・幅とも $0.4\text{ m} \times \text{厚さ } 0.1\text{ m}$ の小土塊を積み上げて盛土としていたが、墳丘表面は築城時の改変によりテラス等の状況は確認できなかった。調査区北端の墳丘上では深さ0.8mの落ち込みがあり、埋土からガラス小玉や細片となった石棺や鉄鏃などが出土した。

内濠は底の幅が $18.4 \sim 19.2\text{ m}$ 、深さは地表面より 2.2 m をはかり、底には泥土が $1 \sim 1.2\text{ m}$ ほど堆積していた。泥土の上層は人工的な埋め土であり、一辺 $2 \sim 3\text{ m}$ のブロックを墳丘側から内堤側にむかって一気に落とし込んで埋めていた。逆に墳丘側はブロックを積み上げて比高約 2 m の段差を築き郭としていた。内濠斜面の傾斜角度は墳丘側26度、内堤側27度をはかる。墳丘側と内堤側の据まわりで葺石を確認した。墳丘側では濠底より 1.5 m 上方から長さ $0.45 \sim 0.7\text{ m}$ 、幅 $0.3 \sim 0.4\text{ m}$ の川原石を小口に積んだ葺石が3段分遺存していた。内堤側は墳丘側より一回り小さい長さ $0.2 \sim 0.5\text{ m}$ 、幅 $0.2 \sim 0.4\text{ m}$ の川原石を用いていたものの大部分がすでに崩落していた。

外濠は外堤と平行に延び、底幅 19.7 m 、深さ 0.8 m をはかる。埋土は耕作土、埋め土、堆積



図66 今城塚古墳 規模確認調査位置図

土に大別できる。堆積土は0.3mの厚さでの砂質土であり、滲水した状況ではない。埋土中からは円筒埴輪とともに12世紀中頃の瓦器椀が出土した。また、埋め土最下面からは鉄砲玉1点（直径1.01cm、重量6g）が出土した。

小 結

今回の調査では内濠南側の幅や深さや後円部側と内堤側での内濠のたちあがり部を確認したことによって後円部南側での墳丘裾の位置が確定した。第1・2次調査で検出した墳丘裾の位置関係から復元すると、後円部の直径は100mであることが判明した。墳丘は北から南へむかって緩やかに下降する地山上にすべて盛土で築かれていたことが想定できるようになった。また、内濠底の標高や泥土層の厚さ・堆積状況からすれば内濠の水面高は南北とも同じであったと考えられる。今回初めて調査をおこなった外濠は、内濠に比して極端に浅く、空濠であったことが確認できた。

このほか、築城にともなう改変は後円部南側においても過去の調査と同様に、大規模かつ計画的であったことが判明したほか、外濠出土の鉄砲玉は築城の時期を絞り込むうえで重要な資料となつた。
(宮崎)

XV.まとめ

今年度は島上郡衙跡で7件、その他周辺の12遺跡で24件、合計31件の調査を実施した。

島上郡衙跡では遺跡周縁部分の小規模な調査が増え、郡衙や寺院に直接関わるような遺構・遺物を検出するには至っていない。ただ、郡衙の周辺では無遺構となる地域が存在することが確認されており、これは逆に遺跡周縁部における遺構分布の把握が郡衙の構成を探るうえでも重要であることを示唆している。

富田台地上に展開する遺跡としては中城遺跡と富田遺跡が知られる。ともに弥生時代から中世の遺跡として知られ、中城遺跡では過去に約6,000枚の埋納鏡が発見されている。今年度についてはわずかな遺構・遺物の検出にとどまっているが、一帯は中世以降の政治・経済の中心的な地域であることからも、今後両遺跡の占める位置はますます高まろう。

高櫻城跡では三ノ丸跡と出丸跡の調査を実施した。近世高櫻城は廢城後の整地、工兵隊の駐屯や宅地化などその姿を変えており、現在は地割りや道路の位置関係からその姿を垣間見ることしかできない。そのため、調査で検出した井戸や墓、堀などの遺構は具体的な資料として重要であるとともに、地山の標高などから旧地形を復原することは、築城以前の状況を知る上で不可欠である。このため、大規模調査以外にも多くの地点での小規模な調査で得るデータも重要な要素となってくる。

梶原寺跡では瓦溜まりが検出された。過去の調査例ではこの周辺で多数の瓦が出土しており、何らかの遺構が存在するのであろう。同寺は現在の畠山神社を中心に展開するとされるが、遺構・遺物の分布はさらに東側へ広がる可能性がある。また、瓦が出土した粘土層や砂礫層は一時的にせよ寺域内に滯水部が存在したことを示唆している。あるいは園池などの可能性も考慮にいれておく必要があろう。

このほか、今城塚古墳では第3次規模確認調査を実施し、墳丘の状態や後円部の直径、内濠の状況について判明するとともに、外濠に関するデータをあらたに得ることができた。

(宮崎)

抄 錄

フリガナ	シマガミイセキグン
書名	鷲上遺跡群
副書名	
巻次	24
シリーズ名	高槻市文化財調査概要
シリーズ番号	26
編集者名	雄ヶ江一朗 宮崎康雄 高橋公一 木曾 広 清水良真 離波紀子
編集機関	高槻市立埋蔵文化財調査センター
所在地	大阪府高槻市南平台五丁目21-1
発行年月日	2000年3月

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキ 鷲上都衙 38-L地区
フリガナ 所在地	オオハセタカハシ ヒイワツチカ 大阪府高槻市清福寺町910-19-20、920-6
コード	北緯 東経 調査期間 調査面積 調査原因
市町村 道路番号	34° 50' 55" 135° 36' 30" 19990914 9.0m ² 個人住宅 建設工事
27207 39	
所収遺跡名 種別	時代 主な遺跡 主な遺物 特記事項
鷲上都衙 官衙	奈良・平安

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキ 鷲上都衙 42-H地区
フリガナ 所在地	オオハセタカハシ ヒイワツチカ 大阪府高槻市郡家新町395-5
コード	北緯 東経 調査期間 調査面積 調査原因
市町村 道路番号	34° 50' 52" 135° 36' 06" 19991213 ~ 19991215 10.0m ² 個人住宅 建設工事
27207 39	
所収遺跡名 種別	時代 主な遺跡 主な遺物 特記事項
鷲上都衙 官衙	奈良・平安

フリガナ 所収遺跡名	シマガミイセキ 鷲上都衙 43-E地区
フリガナ 所在地	オオハセタカハシ ヒイワツチカ 大阪府高槻市郡家新町395-1
コード	北緯 東経 調査期間 調査面積 調査原因
市町村 道路番号	34° 50' 53" 135° 36' 06" 19990511 ~ 19990531 15.0m ² 個人住宅 建設工事
27207 39	
所収遺跡名 種別	時代 主な遺跡 主な遺物 特記事項
鷲上都衙 官衙	奈良・平安

フリガナ 所収遺跡名	シマミコロ 島上郡衙 43-0地区				
フリガナ 所 在 地	オササカタ シマミコロ 大阪府高槻市郡家新町395-49、48の一部				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村 遺跡番号	34° 50' 50"	135° 36' 07"	20000105 ~ 20000119	12.0m ²	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項	
島上郡衙 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	シマミコロ 島上郡衙 57-K・L地区				
フリガナ 所 在 地	オササカタ シマミコロ オニチヨウイチイチ 大阪府高槻市川西町一丁目1092-12				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村 遺跡番号	34° 50' 47"	135° 36' 25"	19991201 ~ 19991210	9.0m ²	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項	
島上郡衙 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	シマミコロ 島上郡衙 84-H地区				
フリガナ 所 在 地	オササカタ シマミコロ 大阪府高槻市今城町164-70				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村 遺跡番号	34° 50' 38"	135° 36' 14"	19990715	8.0m ²	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項	
島上郡衙 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所収遺跡名	シマミコロ 島上郡衙 94-B地区				
フリガナ 所 在 地	オササカタ シマミコロ 大阪府高槻市今城町189-6				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村 遺跡番号	34° 50' 35"	135° 36' 12"	19990823	8.0m ²	個人住宅 建設工事
所収遺跡名 種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項	
島上郡衙 官衙	奈良・平安				

フリガナ 所取遺跡名	中城（1999-1）					
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市昭和町一丁目92-2					
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 49' 33"	135° 35' 25"	19990823	9.0m ²	個人住宅 建設工事	
27207 47						
所取遺跡名	種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
中城	集落	中世				

フリガナ 所取遺跡名	中城（1999-2）					
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市昭和町一丁目68-1					
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 49' 36"	135° 35' 25"	19991116 ~ 19991119	9.0m ²	個人住宅 建設工事	
27207 47						
所取遺跡名	種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
中城	集落	中世				

フリガナ 所取遺跡名	水室塚古墳（1999-1）					
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市水室町二丁目571-2					
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 50' 48"	135° 35' 38"	19990701	9.0m ²	個人住宅 建設工事	
27207 17						
所取遺跡名	種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
水室塚	古墳	古 墳				

フリガナ 所取遺跡名	水室塚古墳（1999-2）					
フリガナ 所在 地	大阪府高槻市水室町二丁目571-4					
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 50' 48"	135° 35' 38"	19990708	9.0m ²	個人住宅 建設工事	
27207 17						
所取遺跡名	種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
水室塚	古墳	古 墳				

フリガナ 所収遺跡名	ヒムロゾウコツソ 水室塚古墳（1999-3）				
フリガナ 所 在 地	オホカタシヒムロゾウコツソ 大阪府高槻市水室町二丁目903-9				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村 遺跡番号	34° 50' 46"	135° 35' 37"	19990726 ~ 19990730	9.0m ²	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
水室塚	古墳	古 墳			

フリガナ 所収遺跡名	ヒムロゾウコツソ 水室塚古墳（1999-4）				
フリガナ 所 在 地	オホカタシヒムロゾウコツソ 大阪府高槻市水室町二丁目571-28				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村 遺跡番号	34° 50' 48"	135° 35' 38"	19990920	9.0m ²	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
水室塚	古墳	古 墳			

フリガナ 所収遺跡名	ヒムロゾウコツソ 水室塚古墳（1999-5）				
フリガナ 所 在 地	オホカタシヒムロゾウコツソ 大阪府高槻市水室町二丁目571-30				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村 遺跡番号	34° 50' 48"	135° 35' 38"	19991001 ~ 19991015	9.0m ²	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
水室塚	古墳	古 墳			

フリガナ 所収遺跡名	ヒムロゾウコツソ 水室塚古墳（1999-6）				
フリガナ 所 在 地	オホカタシヒムロゾウコツソ 大阪府高槻市水室町二丁目571-27				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村 遺跡番号	34° 50' 48"	135° 35' 38"	19991015 ~ 19991029	9.0m ²	個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
水室塚	古墳	古 墳			

フリガナ 所収遺跡名	ミツ 宮田（1999-1）					
フリガナ 所在 地	オオサカ タカハシ ミツタチヨウキンチヨウ 大阪府高槻市宮田町三丁目26-9					
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 50' 33"	135° 35' 44"	20000125 ~ 20000131	9.0m ²	個人住宅 建設工事	
所収遺跡名 様別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項		
宮田 集落	中世	土坑	土器			

フリガナ 所収遺跡名	ミヅ 富田（1999-1）					
フリガナ 所在 地	オオサカ タカハシ ミヅタチヨウキンチヨウ 大阪府高槻市富田町四丁目2544-2					
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 49' 35"	135° 35' 47"	19991114 ~ 19991130	9.0m ²	個人住宅 建設工事	
所収遺跡名 様別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項		
富田 集落	中世	甕・土坑	瓦・土器・陶器			

フリガナ 所収遺跡名	ミヅイマツロ 郡家今城（1999-1）					
フリガナ 所在 地	オオサカ タカハシ ミヅイマツロイチチヨウ 大阪府高槻市水室町一丁目791-5-6					
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 50' 31"	135° 35' 54"	19990614 ~ 19990622	9.0m ²	個人住宅 建設工事	
所収遺跡名 様別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項		
郡家今城 集落	奈良・平安					

フリガナ 所収遺跡名	ミヅイマツロ 郡家今城（1999-2）					
フリガナ 所在 地	オオサカ タカハシ ミヅイマツロイチチヨウ 大阪府高槻市水室町一丁目791-1					
コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村 遺跡番号	34° 50' 30"	135° 35' 54"	19990705 ~ 19990706	9.0m ²	個人住宅 建設工事	
所収遺跡名 様別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項		
郡家今城 集落	奈良・平安					

フリガナ 所収遺跡名	シグイジロ 郡家今城（1999-3）				
フリガナ 所在 地	オキサカ シガラシ ヒムロウイチヨウ 大阪府高槻市水室町一丁目781-27				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 34"	135° 35' 54"	19990716 ~ 19990721	9.0m ²	個人住宅 建設工事
27207 42					
所収遺跡名 種別	時代	主な 遺 跡	主な 遺 物	特記事項	
郡家今城 集落	奈良・平安	ビット	製塙土器		

フリガナ 所収遺跡名	シグイジロ 郡家本町（1999-1）				
フリガナ 所在 地	オキサカ シガラシ シガジンコウ 大阪府高槻市郡家本町1000-26				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 07"	135° 36' 05"	19990921 ~ 19990930	20.0m ²	個人住宅 建設工事
27207 38					
所収遺跡名 種別	時代	主な 遺 跡	主な 遺 物	特記事項	
郡家本町 集落	奈良・平安	津・落ち込み	土師器・寛永通宝		

フリガナ 所収遺跡名	シグイジロ 大藏司（1999-1）				
フリガナ 所在 地	オキサカ シガラシ シガジンコウ 大阪府高槻市大藏司二丁目197				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 30"	135° 36' 03"	19990722 ~ 19990723	9.0m ²	個人住宅 建設工事
27207 56					
所収遺跡名 種別	時代	主な 遺 跡	主な 遺 物	特記事項	
大藏司 集落	弥生～平安		土 師 器		

フリガナ 所収遺跡名	シグイジロ 大藏司（1999-2）				
フリガナ 所在 地	オキサカ シガラシ シガジンコウ 大阪府高槻市大藏司三丁目114				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 26"	135° 36' 06"	19991102 ~ 19991115	12.0m ²	個人住宅 建設工事
27207 56					
所収遺跡名 種別	時代	主な 遺 跡	主な 遺 物	特記事項	
大藏司 集落	弥生～平安	ビット	土師器・須恵器		

フリガナ 所収遺跡名	宮之川原（1999-1）				
フリガナ 所 在 地	大阪府高槻市宮之川原五丁目512-5				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 51' 44"	135° 36' 05"	19991216 ~ 19991217	9.0m ²	個人住宅 建設工事
27207 57					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
宮之川原 集落	古墳	ピット	土師器		

フリガナ 所収遺跡名	高槻城跡（1999-1）				
フリガナ 所 在 地	大阪府高槻市大手町1162-17				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 35"	135° 37' 29"	19990712 ~ 19990714	9.0m ²	個人住宅 建設工事
27207 85					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
高槻城 城跡	中世・近世				

フリガナ 所収遺跡名	高槻城跡（1999-2）				
フリガナ 所 在 地	大阪府高槻市出丸町1277-18				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 50' 26"	135° 37' 17"	2000120 ~ 20000121	8.0m ²	個人住宅 建設工事
27207 85					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
高槻城 城跡	中世・近世				

フリガナ 所収遺跡名	悉曇寺跡（1999-1）				
フリガナ 所 在 地	大阪府高槻市成合北の町601-1				
コード	北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村 遺跡番号	34° 52' 26"	135° 37' 41"	19990805 ~ 19990810	12.0m ²	個人住宅 建設工事
27207 90					
所収遺跡名 種別	時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項	
悉曇寺 寺跡	古代・中世				

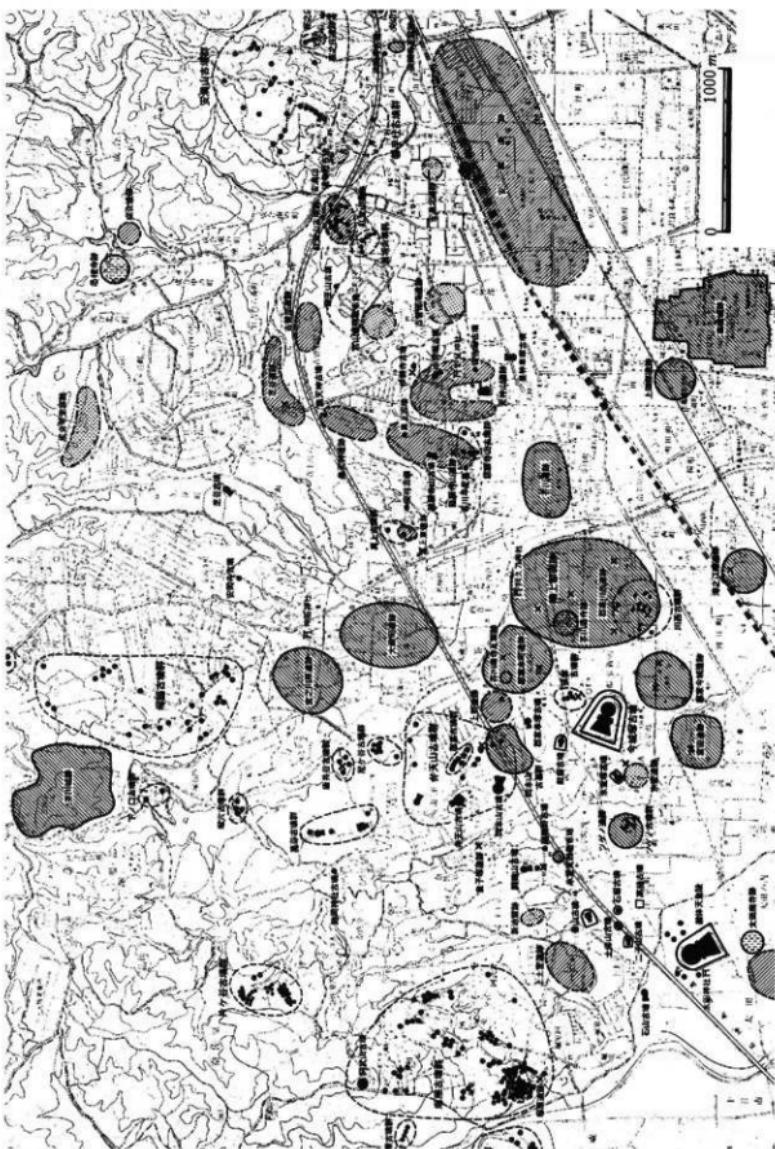
フリガナ 所収遺跡名	モリヨウジツ 梶原寺跡（1999-1）				
フリガナ 所 在 地	モリヨウジツ 大阪府高槻市梶原一丁目277-2,276の一部				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 51' 42"	135° 39' 08"	19991115 ~ 19991119	12.0m ²
27207	104				個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
梶原寺跡	寺院跡	奈良～中世			

フリガナ 所収遺跡名	モリヨウジツ 梶原寺跡（1999-2）				
フリガナ 所 在 地	モリヨウジツ 大阪府高槻市梶原一丁目69-6,370-3				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 50' 44"	135° 39' 11"	19991221 ~ 19991222	9.0m ²
27207	104				個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
梶原寺	寺院跡	奈良～中世		瓦類	

フリガナ 所収遺跡名	モリイ 神内（1999-1）				
フリガナ 所 在 地	モリイ 大阪府高槻市神内二丁目93-8,33				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 52' 10"	135° 39' 49"	19991122	9.0m ²
27207	110				個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
神 内	集落	奈良・平安・ 中世			

フリガナ 所収遺跡名	モリイ 神内（1999-2）				
フリガナ 所 在 地	モリイ 大阪府高槻市上牧北駅前町1218-82-83,175,176				
コード	北 緯	東 經	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 52' 00"	135° 39' 42"	19991224	8.0m ²
27207	110				個人住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	時 代	主 な 遺 跡	主 な 遺 物	特 記 事 項
神 内	集落	奈良・平安・ 中世			

図 版



中川町役場とその周辺



a. 宮田遺跡（1999-1地区）調査区 全景（北側から）



b. 宮田遺跡（1999-1地区）全景（南側から）



1

a. 富田遺跡（1999-1地区）



1'

約1/2



2

a. 富田遺跡（1999-1地区）



2'



3

a. 富田遺跡（1999-1地区）



3'

約1/2



4

a. 富田遺跡（1999-1地区）



4'



5

a. 富田遺跡 (1999-1地区)

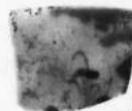


5'

約1/2



6



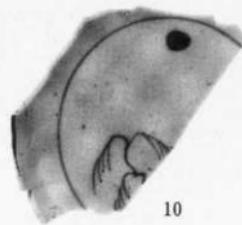
7



8



9



10



11

4'

a. 富田遺跡 (1999-1地区)

約1/2



a. 郡家本町遺跡（1999-1地区） 全景（東側から）



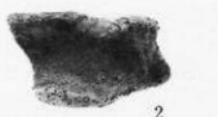
1



1'

b. 郡家本町遺跡（1999-1地区） 銭貨

約1/1



2



3



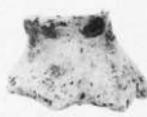
4



5



6



7



8



9

c. 郡家本町遺跡（1999-1地区） 包含層出土遺物

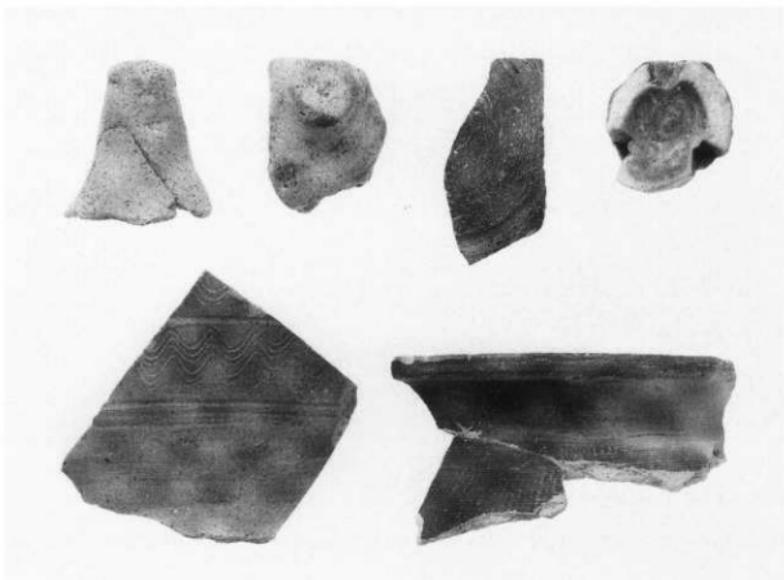
約1/2



a. 大藏司遺跡（1999-2地区） 全景

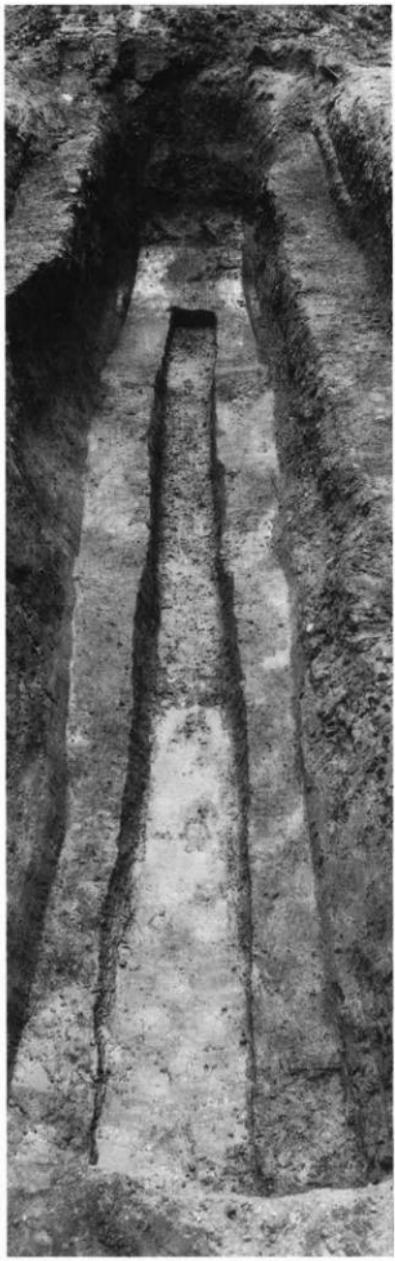


b. 大藏司遺跡（1999-2地区） P1出土須恵器



c. 大藏司遺跡（1999-2地区） 包含層出土土器

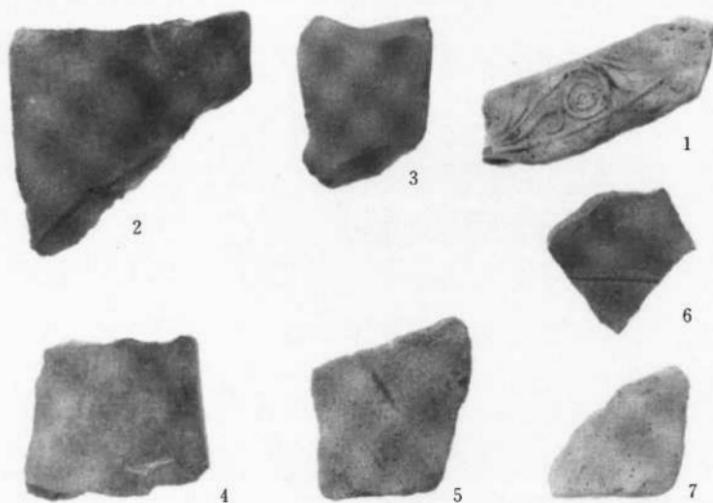
約1/2



a. 高槻城跡（1999-1地区）全景（西側から）

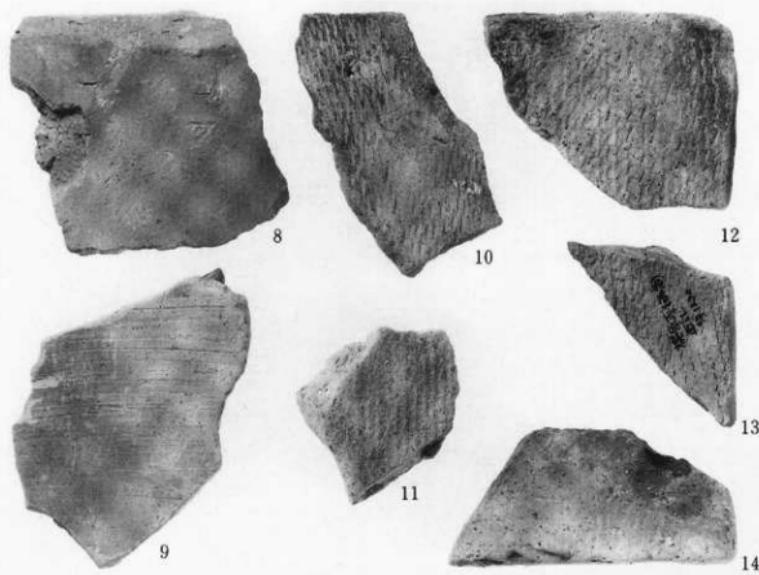


b. 高槻城跡（1999-1地区）全景（東側から）



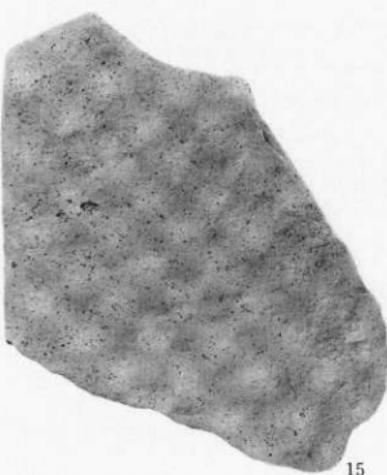
a. 梶原寺跡（1999-2地区）

約1/2

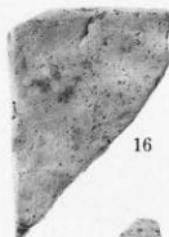


b. 梶原寺跡（1999-2地区）

約1/2



15



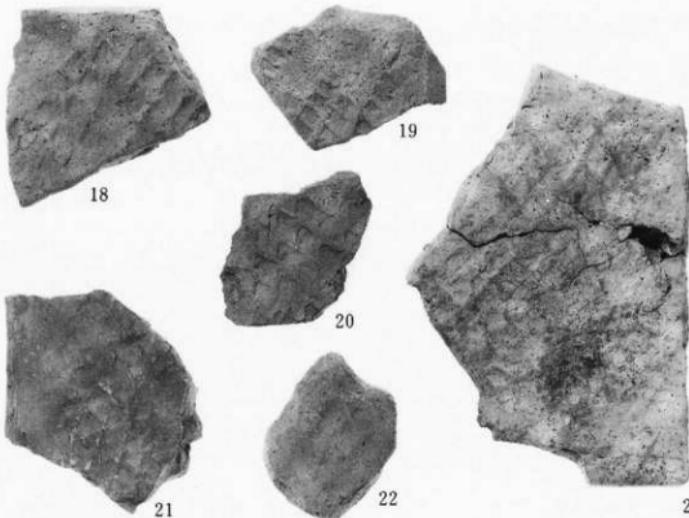
16



17

a. 梶原寺跡 (1999-2地区)

約1/2



18

19

20

23

21

22

b. 梶原寺跡 (1999-2地区)

約1/2



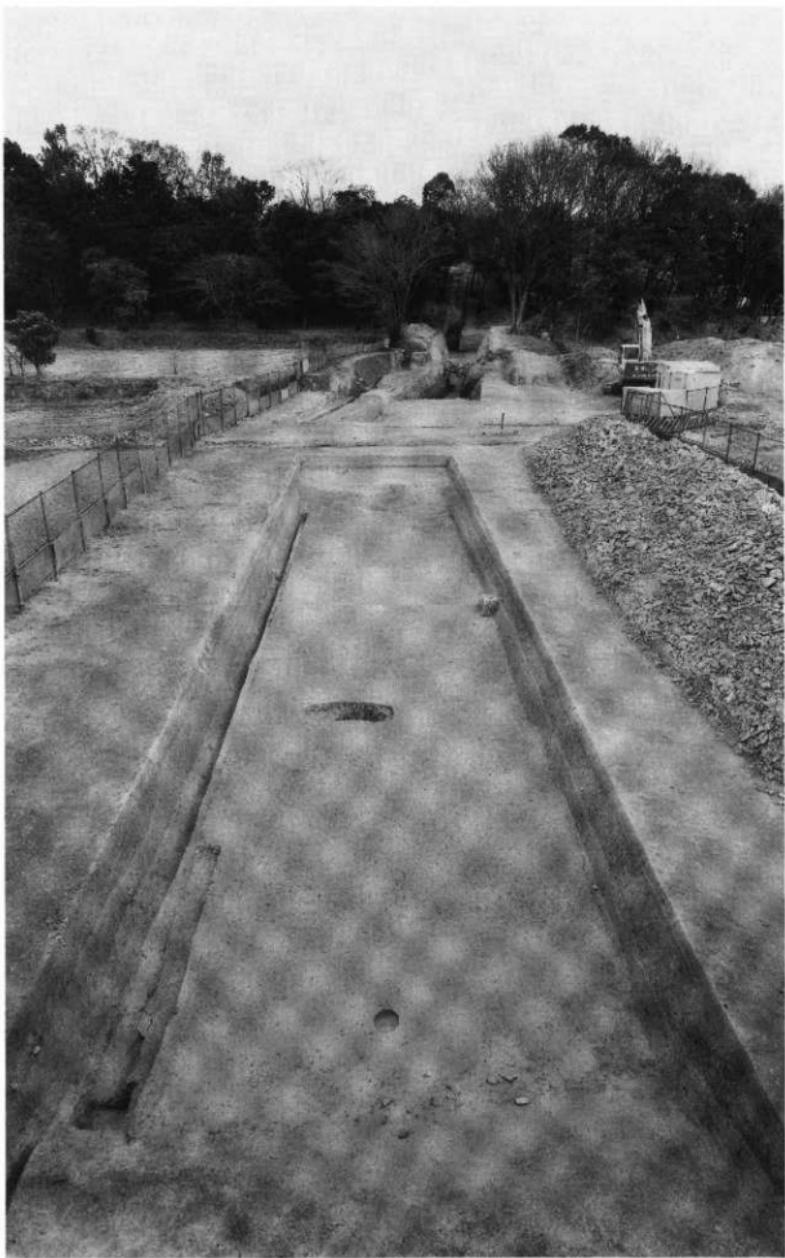
a. 今城塚古墳 全景（航空写真）



b. 今城塚古墳 調査区全景（航空写真）



a. 今城塚古墳 内濠（南側から）



a. 今城塚古墳 外濠（南側から）

高槻市文化財調査概要 XXVI

城上遺跡群 24

平成 12 年 3 月 27 日

発 行 高 槻 市 教 育 委 員 会
高槻市立埋蔵文化財調査センター
高槻市南平台五丁目 21 番 1 号

印 刷 株式会社 邦 文 社
大阪市東淀川区大槻 1 丁目 4 番 9 号